

Copyright Notice

This document is provided under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License (CC BY-NC-SA 4.0):

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/>

You are free to:

- Share — copy and redistribute the material in any medium or format
- Adapt — remix, transform, and build upon the material

Under the following terms:

- Attribution — You must give appropriate credit to the publisher, provide a link to the license, and indicate if changes were made. You may do so in any reasonable manner, but not in any way that suggests the licensor endorses you or your use.
- NonCommercial — You may not use the material for commercial purposes.
- ShareAlike — If you remix, transform, or build upon the material, you must distribute your contributions under the same license as the original.

About the Project

This document was created with the permission of participating publishers as part of the Japanese Multi-Volume Sets Discoverability Improvement Project, funded by the Council on East Asian Libraries and the Mellon Foundation for Innovation Grants for East Asian Librarians.

「新声」第一期 総目次

第一卷第一号（明治二九・七・一〇）目次

気稜々

発行之辞

青年詩人の奮起を促す

不平論

月皎々

今日の青年

過去及現在

奢侈論

露のよすが

故端斎先生の御墓に詣つ

春日の楽

蛩

夏夜散策記

趣津々

天 籟

紫 水 生

嘯 月 生

泉 城 生

堀 重 里

長 眠 子

佐 瀨 重 治

茂 泉 晚 翠

八 木 元 八

分つたもと

花うばら

片々集

今様五首、和歌二九首、発句四一首、漢詩二一首。

露団々

論説、史伝、叙記、祝文——二三篇

花片々

けふ此ごろ、学海の光景

備考（岡野）

菊判四一頁。二段組。定価金五銭。部数八百、発行、牛込左内坂町二八、新声社。編集、発行者は、佐藤儀助（橘香。義亮）

第一卷第二号（明治二九・八・一〇）目次

気稜々

東北青年に告ぐ

長 眠

幽 花

紫 泉

矛盾と調和

月皎々

慈善家の本領

月雪花

時雨

房州の西岸

過ぎし秋の空

春日之樂

午睡有感

趣津々

野笛

親しき友を懐ふ

夏草

蛙

春

閑居

浮世の嵐

金沢懐古

寡婦

今様、和歌、俳句、漢詩

露団々

天 籟

田口 菊治

青木 小旭

剋山 人

嘯月 生

亜起 生

佐瀬 宗作

八木豊太郎

塚原 俊彦

彼水 月

紫 水

林 讓

まゆずみ

中山 幽香

月之舎孤雁

紫明 庵

一 梨 子

論説一〇篇、叙記一二篇、雑文一二篇

花片々

けふ此ごろ、学海の風光、海外片信、新刊批評

第一卷第三号（明治二九・九・一〇）目次

気稜々

少年の文章

文界小観

月皎々

学生の骨髓

自然の美

胸うつ波

浮き草

月！

我が恋人

龍

蛭

趣津々

新体詩一七篇、今様三首、和歌三三首、漢詩二五首、

発句三九句

露団々

田口 菊治

中村 春雨

長 眠子

呉 鉄 生

奥瀬 巴城

多々羅水声

一 梨 子

妙痴 奇林

論説・史伝一〇篇、叙記・雑文一七篇

花片々

新刊批評

備考(岡野)

中村春雨。本名、吉蔵。後、早大教授、文学博士の名、初めて出づ。橘香(儀助)執筆の文界小観、本号より現わる、文芸時評なり。硯友社に対し、痛烈なる批判を加う。

第一巻第四号(明治二九年一〇月) 目次

気稜々

同情論

文界小観

月皎々

南洲を懐ふ

胸うつ波

劍磨

辻堂

房州の西岸

うき草

春の夜のすさび

うたたねの夢

旅衣

趣津々

新体詩一二篇、和歌二六首、発句二六句、漢詩二九

首

花片々

けふ此ごろ、学海の風光、新刊批評

第一巻第五号(明治二九年十一月) 目次

気稜々

感激

小観

月皎々

現今の社会

義なる哉

ゆく雲

劍磨

渡守

夢幻

月下の懐ひ

すすき

趣津々

津阪 閉月

天 籟

紫 水生

長 眠子

青木 弄魚

剋 山人

嘯 月生

吳 鉄生

奥村 千里

我心坊生

奥瀬 巴城

白 嶺生

鶴夢 散人

青木 弄魚

剋 山人

中山 東山

後藤 蘚花

白石 青苔

新体詩一〇篇、和歌二八首、俳句三九句、漢詩二〇首

露団々

論文一五篇、叙記八篇、雜文一七篇

花片々

けふ此ごろ、学海風光、新刊批評

第一卷第六号（明治二九年二月）目次

気稜々

名とは何ぞや

小観

青山幸恵君の小川雄三長逝を悼む

月皎々

某俳人に答ふ

今の文士を難ず

国民的詩人

砂美の仇波

ゆく雲

房州の西岸

趣津々

新体詩

和歌

片しぐれ

俳句

秋十句

漢詩

露団々

論文、叙記、花いろいろ

花片々

けふ此ごろ、学海の風光、新刊寄贈

附録

雅正軒詩話（承前号）

第二卷第一号（明治三〇年一月）目次

気稜々

迎新の辞

才子論

小観

月皎々

社会の混濁

氷川の水

咄嗟の間

鹿島桜巷選

桜巷子

碧梧桐選

子規子

大沼鶴林選

大沼鶴林

天籟

白嶺生

高橋香流

坂本軌脚

偲ぶ草

雪のした水

趣津々

新体詩

和歌

俳句

漢詩

花片々

社会の風波。新刊批評

露団々

論説、叙事、叙情、雑文

新年附録

わか水

神武寺の秋夕

落葉

春雨

備考(岡野)

小島久太(鳥水)の名が出た。

「新声」名誉賛助員として、大町桂月、武島羽衣、河東碧梧桐、高浜虚子、正岡子規、大口鯛二、田島任天、幸堂得知、佐々木信綱が広告された。

第二卷第二号(明治三〇年二月) 目次

気稜々

千載の嘆

小観

月皎々

護良親王

落花流水

笛の音

小夜嵐

活鬪體

趣津々

新体詩、和歌、俳句、漢詩

花片々

文壇の消息、新刊寄贈

露団々

論説、叙記、叙情、雑文

第二卷第三号(明治三〇年三月) 目次

気稜々

醜風陋俗

小観

長眠子
席雲生

田口掬汀等

鹿島桜巷選

河東碧梧桐選

大沼鶴林選

橘香

後藤 蘚花

梅溪生

花垂桃

田口 掬汀

紫水生

薰園、幽花

小島 久太

桜 巷 子

剋 山 楼

小島 久太

薰園、幽花

小島 久太

剋 山 楼

剋 山 楼

剋 山 楼

剋 山 楼

剋 山 楼

剋 山 楼

月皎々

厭世の弊

讀書論

萩が花妻

小夜嵐

江戸絵

梅花数朶

趣津々

新体詩

和歌

俳句

花片々

文壇の消息、社会の風波、新刊寄贈、

露団々

論説、叙事、雑文

附録

雅正軒詩話(承、一巻六号)

備考(岡野)

「新声」記者として、金子薫園、高須梅溪登場

大沼 鶴林

竹南 山人

紫水 生

浅野 笛秋

田口 掬汀

剋山 人

高須 梅溪

後藤 蘇花等

新声記者選

碧梧 桐選

气稜々

作詩意見

新体詩論

小観

月皎々

うもれ草

晓風残月

撰和紀行

はれぬ思

玉手函

俳句

趣津々

新体詩

和歌

俳句

漢詩

花片々

文壇の消息、口絵略解

露団々

姫百合、論説、叙事、叙情、雑文

第二巻第四号(明治三〇年四月) 目次

大町 桂月

武島 羽衣

塩井 雨江

金子 薫園

梅溪 生

長眠 子

風当 咲子

正岡 子規

溝口春翠等

清原文彦選

碧梧 桐選

大沼 鶴林選

附録

雅正軒詩話（承前）

大沼 鶴林

附録

雅正軒詩話（承前）

大沼 鶴林

第二卷第五号（明治三〇年五月）目次

気稜々々

作詩意見

文章の真髓

月皎々

安藤慶子刀自の肖像に題する文

今様詩人

花ふぶき

答蘇武書に顕はれたる李陵

はれぬ思

我が末路

趣津々

新体詩

和歌

俳句

漢詩

露団々

姫百合、論説、叙事、雑文

三輪田真佐子

大町 桂月

落合 直文

與謝野鉄幹

金子 薫園

西村 酔夢

長 眠子

田島 雪琴

金子幽花等

清原文彦選

碧梧桐選

大沼鶴林選

第二卷第六号（明治三〇年六月）目次

気稜々々

作詩意見

小観

月皎々

玉くしげ

観念小説を論ず

国俗改良策

母さん

小夜吹雪

わか紫

趣津々

新体詩

和歌

俳句

漢詩

露団々

姫百合、報道、論説、叙事、叙情、雑文

新声記者

大町 桂月

佐々木信綱

浅野 笛秋

碧 潭 生

田口 掬汀

湯川 鶴夢

高須 梅溪

古谷清籟等

清原文彦選

高浜虚子選

大沼鶴林選

附 録

雅正軒詩話（承前）

大沼 鶴林

第三卷第二号（明治三〇年八月） 目次

金子 薫園

第三卷第一号（明治三〇年七月） 目次

氣稜々

新体詩学

武島 羽衣

小観

小野小町を評論す

三輪田真佐子

小観

山伏撰待

西海 生

月皎々

尺山の一夜

紫水 生

磯山嵐

趣津々

大塚楠緒子

濤月 等

山伏接待

新体詩

西海 生

北海羈窓録

和歌

浅野 笛秋

清原文彦選

和氣清磨

俳句

掬汀 生

碧梧桐選

船歌

漢詩

巴 水

大沼鶴林選

趣津々

露団々（懸賞文披露）

新体詩

夜雨（第一等賞）

金子幽花等

粕谷 芳文

和歌

同（第二等賞）

清原文彦選

浅野 笛秋

漢詩

同（同 右）

大沼 鶴林

石塚 真言

露団々

人問（第三等賞）

同

安達元之助

姫百合、叙事、叙情、雜文

同（第三等賞）

同

長谷川二郎

附 録

夜雨（第三等賞）

大沼 鶴林

遠藤 桂風

雅正軒詩話（承前）

大沼 鶴林

第三卷第三号 (明治三〇年九月) 目次

気稜々

清貧

小観

月皎々

人生小観

駁観念小説論

消夏雑筆

趣津々

新体詩

懸賞和歌披露

懸賞漢詩披露

俳句

露団々

姫百合、叙事、雑文

附録

雅正軒詩話

第三卷第四号 (明治三〇年一〇月) 目次

気稜々

文界小観

月皎々

夜半の嵐

清貧を賛す

真勇

浮萍

趣津々

新体詩、和歌、俳句、漢詩

露団々

支部動静、論説、叙情、雑文

第三卷第五号 (明治三〇年十一月) 目次

気稜々

文界小観

月皎々

雨の美

駁観念小説

浮萍

沈吟餘録

離の菊

趣津々

新体詩、和歌、俳句、漢詩

薫園 主人

西村 醉夢

紫水 生

田口 掬汀

新声記者

高須 梅溪

浅野 笛秋

田口 掬汀

白石 青苔

薫園 主人

大沼 鶴林

大沢 天仙

西村 醉夢

梅溪 迂人

投書家諸氏

清原文彦選

大沼鶴林選

佐藤 橘香

露団々

支部動静、姫百合、論説、叙事、雜文

附 録

雅正軒詩話（承前号）

大沼 鶴林

備考（岡野）

この頃、高須芳次郎（梅溪）入社記者となる。

第三卷第六号（明治三〇年二月） 目次

氣稜々

文界小観

新声記者

月皎々

浪まくら

橘 香

清嘯幽遠麗

一 堂

與淺野君

醉 夢

目的と方便と

苦米地治三郎

趣津々

和歌、俳句、漢詩

露団々

新刊寄贈、支部動静、叙事、叙情、小説、雜文

附 録

雅正軒詩話

大沼 鶴林

第四卷第一号（明治三二年一月） 目次

氣稜々

新春の孤憤

佐藤 橘香

詩論

大沼 鶴林

月皎々

風響雨声

汀 水 軒

薬師堂の額

宮田 稜々

金錢と変化

戸田 萍蓬

新春雜感

社 末 生

雲烟過眼

白石 青苔

趣津々

露団々

附 録

雅正軒詩話

大沼 鶴林

新乾坤

七 大 家

第四卷第二号（明治三二年二月） 目次

氣稜々

小観

新声記者

月皎々

紀貫之

佐藤 橘香

末の露

詩歌の為に辯ず

廃宅

杜鵑日記

鳥黒鷺白

雲水小筵

趣津々

順礼歌

和歌、俳句、漢詩

露団々

姫百合、論説、叙事、叙情、雑文

備考(岡野)

河井又平(醉夢)詩を発表

第四卷第三号(明治三十一年三月) 目次

気稜々

小観

新体詩学

月皎々

健児に寄す

情死論

金子 薫園

八塚 琴泉

鹿園 主人

やまびこ

白石 青苔

清 好

河井 醉茗

娼婦論

梅田雲濱

勢山勢水

時勢と達人

梅圃の月

北郊逍遥

新資格論

趣津々

花片々

露団々

備考(岡野)

西村真次(醉夢) 歴史学者、後に早大教授、文博。執筆活動盛ん。

第四卷第四号(明治三十一年四月) 目次

気稜々

小観

新体詩学

月皎々

随見

菅公

戸田 萍蓬

下野 芳蘭

西村 醉夢

藤嶋 源蔵

宮田 稜々

小石 青鱗

一橋斎主人

佐藤 橘香

武島 羽衣

千葉 萬葉

石丸 紫水

後藤 薜花

西行法師の遁世を原ぬ

梅田雲浜

真大夫

情死論を読む

酔夢君に与ふ

趣津々

幸ある此世

さざ波

和歌、俳句、漢詩

花片々

けふ此ごろ

誌友懇話会概況

備考(岡野)

詩人有明、本誌により育つ。中根駒十郎(橘香の義弟)入社

第四卷第五号(明治三二年五月) 目次

気稜々

小観

月皎々

薤上の露

西行の自然観

西村 酔夢

下野 芳蘭

二宮 笛舟

吉川 小舟

浅野 笛秋

蒲原 有明

堀井 汀水

浅野 笛秋

高橋 生

高橋 生

月皎々

小観

愛を論じて社会の弊風に及ぶ

学生風の風紀

遊獵

清沢の一夜

一日の旅

御面相

小舟子に問ふ

趣津々

月の影

無友嘆

さくら塚

梅田雲浜

鉛筆に別る詞

「二葉集」の序

花片々

露団々

第四卷第六号(明治三二年六月) 目次

気稜々

小観

月皎々

愛を論じて社会の弊風に及ぶ

学生風の風紀

遊獵

清沢の一夜

一日の旅

御面相

小舟子に問ふ

趣津々

月の影

白石 青苔

宮田 稜々

下野 芳蘭

金子 薫園

橘 香生

新声記者

八塚 琴泉

北 豪 生

井上 進

宮田 稜々

藤嶋 源蔵

一 橋 斎

大 艦 子

雨 声 子

苔むしろ
流れ百合

白石 青苔
宮田 稜々

露団々

花片々

けふ此ごろ、我党の動静、近刊漫評

第五卷第二号（明治三十一年八月）目次

露団々

清籟清韻

論説、批評、叙事及叙情、雑文

残芳記

第五卷第一号（明治三十一年七月）目次

黒風白雨

気稜々

さらし布

小観

新声記者

鶴城春雨

月皎々

懸賞文

保元の時雨

汀 水 軒

まぼろし日記

鷺か島の嵐

井上 進

御祝儀

夏くさ

梅 溪 生

不動堂

手帳

一橋斎主人

三番汽車

斬魔剣

戸田 萍蓬

夏の一日

偽善宗教家

波 郷

馬追

「與醉夢書」の疑問を質す

西村 醉夢

夜の鶴

思ひいて

寥 星

夢

趣津々

雑録

花片々

鎖夏の方法

小島 烏水

金子 薫園

河井 醉茗

風 響 生

大沼 鶴林

與謝野鉄幹

田口 掬汀

金子 幽花

宮田 稜々

春 濤

岡 稻里生

三卷 芳嶺

桜 山人

佐々木辰實

誌友諸氏

夏日の読書
夏日述懐集

花峰生
一橋斎

第五卷第四号（明治三十一年一〇月）目次

本領

奢侈論

文界小観

精美

水色山水蕭索秋

月下叩門

雨中旅行

不在の声

道德の廢頽

対面千里

詞華

新体詩、和歌、俳句、漢詩

片々

近事、批評

群芳

論説、叙事、叙情、雑文

新声記者

西村 醉夢

岡 稻里生

高須 梅溪

井上 進

鶴飼 亮三

鉄幹 談話

第五卷第三号（明治三十一年九月）目次

気稜々

小観

月皎々

枯れたちばな

浮世海

浦わめぐり

忠烈

埋木

趣津々

筆を葬る歌

苔衣

清風白露

和歌、俳句、漢詩

花片々

新刊批評

露団々

叙事、叙情、雑文

本領

奢侈論。学者崇拜。新体詩界。

第五卷第五号（明治三十一年十一月）目次

思想の乱調。

精美

大蘿蔔頭

文壇風聞記

武蔵野の一日

つつみ石

修養

詞華

秋風

知るか君

須磨の夜半

新体詩数篇、和歌、俳句、漢詩

片々

秋夜茶話

群芳

叙事、叙情、雜文

第五卷第六号（明治三十二年十二月）目次

卷首

新声誌友懇和会概況

本領

佐藤 橘香

精美

與謝野鉄幹

妖 堂

宇治の山人

宮田 稜々

石丸 紫水

藤本 芳雪

山口 吟風

秋 月生

文壇小観

文壇風聞記

如是我悟

京上りの記

ささ沼

武蔵野の一日

詞華

箴の音

朝霧

閑窓雜吟

更けゆく日

友を送る

秋の夕ぐれ

片々

萬象二行録

新刊短評

群芳

評論、叙事、雜文

佐藤 橘香

妖 堂

菅 稻吉

高瀬 水棹

鈴木 寥星

宇治の山人

溝口 春翠

堀井 長眠

西村 醉夢

白石 秋影

松浦 桜陰

冠木 柳園

一橋斎主人

直筆生

第一編第一号（明治三二年一月）目次

嚴霜烈日

革風小言

芳草秀花

波の雫

盛代の賜歟

探題廿首

藤房郷

無縁塔

登る烟

小児

痛憤余言

函嶺春信

雪の山路

小春日の逍遥

文壇風聞記

紅葩緑水

片山家

寒月

南西北東

乾坤一筆録

春翠逝く

万星燦爛

評論、叙事、雑文、投書家

諸同人

佐藤 橘香

第一編第二号（明治三二年二月）目次

嚴霜烈日

革風小言

芳草秀花

兔唇一嘯

ぺんぺん草

生活難と道義

冬遠近

忍ぶ草

こしの春

藤房郷

紅葩緑水

漁夫

南西北東

初春閑話

万星燦爛

評論、叙事、雑文、投書家

佐藤 橘香

大町 桂月

與謝野鉄幹

高須 梅溪

西村 醉夢

井上 進

物見 嘲風

佐藤 雲萍

山口 吟風

白 巖 楼

第一編第三号 (明治三二年三月) 目次

嚴霜烈日

文界小観

芳草秀花

兎唇第二嘯

「嶺雲揺曳」自序

文壇風聞記

緊急問題

巖嶋の半日

與青年諸卿

井底管見

行雪流水記

藤房卿

紅葩緑水

追病歌

湖畔逍遙

南西北東

野花一枝

万里燦爛

評論、叙事、雜文、投書家

第一編第四号 (明治三二年四月) 目次

嚴霜烈日

文界小観

芳草秀花

人籟吹万

文壇風聞記

横浜紀行

莊周を論ず

井底管見

愛宕山

紅葩緑水

形見の日

小野川辺

南西北東

白雲紅霞

万里燦爛

評論、叙事、叙情、投書家

第一編第五号・春風秋声 (新声臨時増刊) 目次

翠嶺白雲

八塩のいでゆ

橋 香

田岡 嶺雲

妖堂居士

二人 男

西村 醉夢

沢藤 怪顔

井上 進

堀井 長眠

桧 風

泊 雁

金子 幽花

細川 紫華

泊 雁 郎

大町 桂月

春の夜

魔王物語

大河を瞰る

臨水亭

白藤集

一步一景

鄙の長路

入仏事

江湖百景

一夕観

嘯風吟月

縹緲錦

浪路の秋風

おぼろ夜

春の一日

雪の月

春宵雨声

土井 晚翠

田岡 嶺雲

三木 天遊

笹川 臨風

與謝野鉄幹

田山 花袋

久保 天随

小栗 風葉

石丸 紫水

堀井 風響

中村 春雨

田中 萩村

宮田 稜々

山田梅廼舎

岡 稻里

遠藤 桂風

武帝去来紅袖盡。 野花黄蝶領春風。

すみれ帖

落花嘆

破れ琴

佳人失手鏡初分。 何日団円再会君。

今朝万里秋風起。 山南山北一片雲。

芳草秀花

人籟吹方

若松城

桃谷の夢

故園の一日

順と逆

佐山の一夜

春風秋声評

紅葩緑水

初若菜

夜の神

南西北東

杜鵑一声

逸狂漫語

万里燦爛

小島 烏水

高須 梅溪

佐藤 橘香

田岡 嶺雲

久保 天随

高須 梅溪

宮田 稜々

管籥 體子

石松 啞鴉

碧 潭 生

穂 舎

田村 位岳

白眼 老人

一橋斎主人

第一編第六号 (明治三二年五月) 目次

幽溪小壑

玉楼傾側粉色空。 重疊青山遠故宮。

評論、叙事、叙情、雑文、投書家

南西北東

細雨霏々録

白眼 愚禪

第一編第七号 (明治三二年六月) 目次

文壇所見、教育界随聞

芳草秀花

万星燦爛

深言高嶺

投稿諸子に告ぐ

花 峰

古寺

評論、涙の力、宗教に就いて、所感録、叙事、叙情

吉祥如意草 (上)

私生神

第二編第一号 (明治三二年七月) 目次

上京日記 (其一節)

田口 掬汀
管 髑髏

白雲悠々

紅葩緑水

深谷高嶺

新体詩 浮藻

長 眠

向島の夏

雁の一声

王 水子

雷雨録

長風余音

夏季漫吟

逸題、春の歌

青葉山登美子

出雲の浜辺

春風吟

豊田 玉萩

過自恃庵故居假銀城

天龍峽

山 水

出溪小壑

秋夜

玉 風

やなぎ蔭

わたのはら

紫 夕

蝴蝶集

燕子に寄す

井上 芳風

太田道灌

笠置山

永田 月

嗚呼薄命の身

和歌、俳句、漢詩

江湖百景

佐藤 橘香

漁村家村
鴨跖草

あやめ草

清風一掬

夢見

觸體漢

雜 録

夏について、避暑地

第二編第二号 (明治三二年八月) 目次

嚴霜烈日

革風小言

芳草秀花

文壇風聞記

逸狂漫語

客舎雜記

はちす舟

放浪一夜

汽車の窓

読書主眼

紅葩緑水

石丸 紫水

堀井 長眠

井上 進

藤嶋 愛泉

宮田 稜々

無名氏

誌友諸氏、寄書家

田中正造氏

夏木立

南西北東

新刊批評、記者、落葉籠、投稿家

万星燦爛

論文、叙事、叙情、投書家

第二編第三号 (明治三二年九月) 目次

嚴霜烈日

文界小観

芳草秀花

文壇風聞記

逸狂漫語

客舎雜記

星夕

大宮行

銷魂録

長井の浜の一夜

葭簀小屋

文界時言

紅葩緑水

葉末 露子

金子 幽花

佐藤 橘香

妖堂居士

一橋斎主人

泣血子

杏 雨

藤 袴

秋 影

小林 蘭溪

宮田 稜々

この糸庵

いちじく

韻文六篇

漢詩

南西北東

梧桐一葉

落葉籠

万星燦爛

叙事及評論

第二編第四号臨時増刊(明治三二年一〇月) 目次

翠嶺白雲

滝まくら

穿雲記

おぼろ影

金曜日の懐旧

翠虹万丈

荒磯物語

冬こもり

京の紅葉

大雄山紀行

秋季雑咏

金子 幽花

投稿家

大沼 鶴林

白眼 若翁

投稿家

投稿家

備考(岡野)

當時の名家、一堂に筆を揃えた観。

第二編第五号(明治三二年一〇月) 目次

嚴霜烈日

文界小観

芳草秀花

京めぐり

文壇風聞記

春日影

秋風白露

故山

読紅葉舟

紅葩緑水

萩の花

萩すすき

南西北東

虫声唧々

落葉籠

万里燦爛

評論、雑文、叙事、叙情、投書家

佐藤 橘香

高須 梅溪

妖 堂

堀井 汀水

藤島 愛泉

三卷 芳嶺

本宮 醉花

西村 醉夢

葉末 露子

花 峰 生

投稿家

投稿家

投稿家

投稿家

投稿家

投稿家

投稿家

投稿家

投稿家

投稿家

第二編第六号（明治三十二年二月）目次

嚴霜烈日

文界小観

芳草秀花

あさがほ

游女

春日影

茸がり

秋暁

箱根行

紅葉狩

紅葩緑水

柿紅葉

恋の涙

草枕

追分節

巡礼

綾瀬川

ふるさと

天涯孤舟

和歌、俳句、漢詩

佐藤 橘香

西村 醉夢

石丸 紫水

堀井 汀水

岡 稲里

遠藤 桂風

山崎 啞蟬

そし 生

山田 野梅

秋 影

白 潮

堀井 長眠

中村 天琴

志田 幽澗

川上 孤山

一色 白浪

南西北東

柳絮録

新刊漫評

落葉籠

万星燦爛

評論、叙事、雜文、投稿家

第二編第七号（明治三十二年二月）目次

嚴霜烈日

文界小観

芳草秀花

暮秋村

文壇風聞記

豪徳寺

おとどひ

涙痕

年の暮

紅葩緑水

逸題

柳かげ

比翼の影

白眼若翁

陸 鐘 冠

投 稿 家

佐藤 橘香

梅 溪 生

妖 堂 生

白 石 秋 影

神 戸 春 醉

田 嶋 断 絃

三 卷 芳 嶺

一 色 白 浪

白 石 秋 影

大 宮 鈴 子

南西北東

新刊紹介、記者、落葉籠、

万星燦爛

評論、叙事、雜文

第三編第一号(明治三十三年一月) 目次

主張

文界時評

評論

遠征

作詩の要諦

読統俳句評釈

美文

塗刷毛草紙

男鹿島の一角

秋の日

晩秋の一日

寺の灯

深山の梅

秋雨小景

むら雲

山色水声

湯煙

夕日影

笹打つ霰

春花秋月

韻文

小羊

枯れ萩

荒れたる宿

無声歌

有磯海

菊の下露

妹の墓

花の下臥

山光水色

疫癘

松毬集

春季雜吟

雜纂

貴山氏に寄す

木曾路の話

紅霞

井上芳嵐

碧涯

鈴子

村雨生

河井醉茗

堀井長眠

香川翠浦

大塚甲山

沢田翠涯

大宮鈴子

怨鶯庵醉雨

志田香風

山口吟風

浅野契夫

金子薰園

坂本四乃太

田岡嶺

小島烏水

あざみ

病床呵筆

第七号短評

落葉籠

附録

文から

鼠鳴き

ひとり法師

今夕是何夕

御茶の水

寒余嘆

さくら

静嵐

剣棒

誌友諸氏

廣津柳浪

與謝野鉄幹

小栗風葉

笹川臨風

河井碧梧桐

久保青琴

文壇風聞記

評論

沙翁と巢林子

汝の敵を愛せよ

大瀾小波

美文

神詣で

風声

ひとり旅

ふな路

山茶花

晩秋の旅

目白鳥

小半日

砂村の秋

韻文

小鳥

村情雜吟

干汐

炭木樵

夕照

妖堂居士

奥村梅臯

桃涯生

藤島愛泉

野崎斧雄

岡稻里

井上進

山口吟風

沢田翠涯

河田芳水

雨の屋

前田翠溪

金子烏江

蒲原有明

白百合

一色白浪

時雨庵

眠月

無名氏

飯田龍泉

碧梧桐

第三編第二号(明治三三年二月)目次

主張

文界時評

文芸小観

研究

聯句評釈

梅花詩人

人物

文士月旦

秋夕微吟

思の闇

雁かね

人のもとへ

淡けき夢

明星

霜夜吟

花売乙女

星かげ

芭蕉の風

俳句

和歌

漢詩

雜録

寸山尺水

冬景色雑声元旦の雪

小萩悠々餅つき

朝顔

秋の野

夕暮

四季花暁冬のもの

大口 真峯

義治 子

朴山 樵夫

きよ 子

むらさめ

白 露

児嶋 青嵐

国井 蝶夢

玉水 子

清水 橘村

碧梧 桐選

金子 薫園

大沼 鶴林

餘枋

甘言苦語

編輯便り

第三編第三号(明治三十三年三月) 目次

主張

文界時評

文芸小観

研究

聯句評釈

人物

文壇風聞記

評論

北條早雲

鴨長明

基督教に対する希望

小説

思の音

夢の跡

美文

本州横断記の一節

崑崙山

編輯子

編輯子

浅野 馮虚

新声記者

碧梧 桐

妖堂居士

石丸 紫水

金 沙

緑舟 子

椿の家

凹村

小島 烏水

小盡講

平塚の一夜

守山城

柿色衣

名子の浦

朝の雪路

杜の唱歌

帰省

秋の名

韻文

愚乎狂乎

うきね

奇俠子賦

新天地

逍遙吟

朝月夕

紅梅一枝

忍ぶの乱れ

牧場の少女

もつれ糸

俳句

猿人

児島青嵐

管 髑髏

相馬千里

黒江雨窓

三栖秀

破笠園

釣川

吉川露江

與謝野鉄幹

はうらむ

藤崎緑水

夕里

大宮鈴子

藤本紫夕

白鷄楼

鈴木夏山

香川翠浦

久保枯萩

碧梧桐選

和歌

漢詩

雜纂

病余録

落葩集

鰻騷動記

さん歩

怪しき庵

堀抜

虫の音

冬草帖

余枋

甘言苦語

編輯便り

記者と読者

備考(岡野)

本号には稿者の都合にて人物月且を欠く

金子 薫園

大沼 鶴林

荒川 静嵐

福田 義三

金岡 滄州

小室 雄峰

黒沢庄二郎

高日 翠園

川口 竹水

紫 峰

崑崙山

編輯子

寄書家

第三編第四号(明治三三年四月) 目次

主張

天方と学問

多望なる文士

人物

文壇風聞記

評論

結綱集

断腸を評す

由井民部

桜の花

小説

罪不罪

納豆壳

奥様

美文

加茂提

澱湖の一夜

夜汽車

昆虫譜

菜花十二景

榛名の眺め

暴風雨

秋雨

妖堂居士

吉川 曾水

奥村 梅臯

井上 鳳城

中村さくら

田口 掬汀

菅 稻吉

春 醉 庵

生田 葵山

金子 鳥江

桂 川 生

千田 青蛙

小室 雄峯

藤井 馨英

芙蓉の山人

白 董 庵

うくひす集

最上川の一夕

みだれこころ

韻文

根芹集

海の歌

帰る雁

春里

残香

知るや君

春のうらみ

薔薇がき

春興雑吟

和歌

紫黒吟

菜花集

俳句

漢詩

雑 録

涙痕集

冷かな宴会

上村 紅林

寥 庭

血 桜 生

しらつゆ

月 光

松山 筆峰

大嶋 赤風

白 鷄 楼

及川 瑞穂

金 沙

青 牛

古 茗

薰 園

與謝野鉄幹

金子 薫園

碧 梧 桐 選

鶴 林 選

雪 城 子

好 翠 生

軒端の落花

古城の月

余 枋

甘言苦語

編輯便り

新刊批評、記者、記者と読者

無有生
加藤庄次郎

韻文

ある夜の梅

二等 春の歌(賞二円)

三等 同右

秀逸 富嶽の歌 以下四名あり

山内 冬彦
藤本有隣 秋湖

第三編第五号(明治三十三年四月) 目次

論 文

一等 日本国民の性質(賞五円)

二等 同 右 (賞二円)

三等 同 右(図書切符一円)

秀逸 吾人は安いて現時の教育を受

く可き乎(賞、文学小観)

秀逸 同 右(賞、文学小観)

美文

一等 二ツ玉(賞五円)

二等 花月物語(賞二円)

三等 雲(賞図書切符一円)

三等 黄楊の櫛(賞同右)

秀逸 ちる花

昇 直隆

宮坂 瑩堂

東海林辰三郎

松溪喜曾一

藤嶋 愛泉

山田 翠山

武田 道一

岡 忠太郎

宮田 芳造

高橋 花外

主張

審美眼と道德眼

今の批評

人物

巖谷漣山人

文壇風聞記

評論

露伴の理想

国家と国語

水と文明

小説

破鏡記

天理教

美文

青年詩人

△ △ 生

妖 堂

奥村 梅臯

三村積一郎

伏木 楽山

塩田 光陽

遠藤 桂風

世捨人

春風行

一人あるき

探梅二日

散る花

わが秋

木枯の夕

嬉しきもの

韻文

散る花

湖畔吟

狂吟

雲雀の歌

蛇の子

二人が昔

くれのなやみ

富士の歌

和歌

たきのこり

俳句

漢詩

華石

黒江雨窓

福島水月

翠湖

藤袴

楚江子

霧山人

原見風車

川上孤山

春星

しらはのや

阿部月夜

金沙

前田翠溪

嶺風

蒲水

薫園選

金子薫園

坂本四方太選

大沼鶴林

雜纂

誌友懇話会の記

紫

いろいろ

うたの悪口

春窓小品

落花に対する観念聯想

余枋

甘言苦語

編輯便り

第三編第七号(明治三十三年六月) 目次

主張

新聞の三面記事

外国語の素養

近刊小説

緑蔭満地

研究

聯句評釈

人物

江見水蔭

I N S

狂花

前田翠溪

あうむの子

中田碧涯

芥川素堂

崑崙山

編輯子

碧梧桐

△△生

文壇風聞記

評論

露伴の理想

青年と人物

悲劇的英雄

成島柳北

美文

目白鳥

春雨

伊勢詣で

墓畔の一夜

叔父が家まで

雪の道

孤児

塵外一日

韻文

みかへり阪

狂蝶

落ち椿

蛇に與ふ

あやめ草

妖堂居士

奥村 梅臯

皎潔 野郎

伊勢の浜荻

桃 涯

白山 樵夫

桂 川

岡 稲里

告 天子

涼々 生

香川 翠浦

稲 里

福田吐霓郎

片上 天絃

橋本 嶺風

しらつゆ

掬 泉子

まこと

翠蔭微吟

俳句

和歌

画帳日記

漢詩

雜 録—雨に対する観想—

不平録

暮春の懐

我の思

落葉日記

乘興録

余 枋

甘言苦語

編輯便り

新刊月旦

時任 霧峰

碧 梧 選

金子 薰円

間日月庵

大沼 鶴林

菅 髑髏

芦 川

は す い

静 雨

西川 春里

崑崙山

編輯子

記者と読者

第四編第一号 (明治三十三年七月) 目次

主 張

女子と文学の嗜好

(其の他数項)

研 究

新声記者

聯句評釈

人物

久保天随

文壇風聞記

評論

屈原論

世俗の腐敗と宗教の急要

成島柳北

小説

陰徳

金の指環

人の子

美文

森の朝

耶馬の技道

わが夏

兵部塚に亡父を吊ふ

落花の夕

あばらや

かわづ籠

霞浦の一夜

河東碧梧桐

高須 梅溪

妖 堂

奥村 梅臯

潜 淵

桃 涯

海賀 六華

萩生 残雨

蓬 露

黒江 雨窓

井上 芳嵐

ゆふなみ

水月 生

楽所 生

黒板 素溪

かつら 生

風外 生

韻文

新緑

桂浜の賦

落葉籠

志はたれ衣

古野暮閣

もりうた

俳句

和歌

反古障子

漢詩

雑録

観想漫記

夢に対する観想

余 枋

編輯便り

新刊月旦

第四編第二号(明治三十三年八月) 目次

晚江(小説)

三人の海(小説)

西川 春屋

川村 敷島

山本 武雄

及川 瑞穂

汀水、緑山

滋賀の浦人

碧梧桐選

金子薫園選

金子 薫園

大沼鶴林選

さくら

編輯子

記者と読者

小栗 風葉

江見 水蔭

嚼氷談屑(隨筆)
 葱の露(隨筆)
 蚩十句(俳句)
 女十首(短歌)
 穢多村(小説)
 村居(短歌)
 白芙蓉(小説)
 哀別(小説)
 鈴草(韻文)
 杉菜集(韻文)
 柳ヶ浦懷古(美文)
 金羽使(韻文)
 小米桜(韻文)
 春雨の一夜(美文)
 夏の瀨峽(美文)
 夜の声(韻文)
 蝉(韻文)
 吉野の春(美文)
 夏の北海道(雜文)
 陽春記(美文)
 星の光(韻文)

久保 天隨
 沼波 瓊音
 河東碧梧桐
 與謝野鉄幹
 中村 春雨
 梅子 黄
 金子 薰園
 海賀 六華
 片上 天絃
 白 鷄 樓
 紫 水 生
 夏野 橘村
 白 鷄 樓
 黒江 雨窓
 西尾 董汀
 橋本 嶺風
 よし を
 岡 稻里
 柴崎 鷗州
 秋 雲
 河田 白露

湘陽一日(美文)
 土橋の夕暮(美文)
 無傘の記(美文)
 月下の袖(美文)
 青春怨(小説)
 鮎釣(美文)
 和歌(応募)
 俳句(応募)
 子規十句(俳句)
 漢詩(応募)
 観蓮(漢詩)
 雪について(小品)
 拝啓(書翰)

第四編第三号(明治三十三年九月) 目次

主張

東京趣味と大阪趣味

外四項

研究

聯句評釈

人物

河野 野菊
 露 華
 瘦 細 老
 ろ せ ん
 塩谷 楓水
 楚江 漁郎
 金子薰園選
 河東碧梧桐選
 月 兎
 大沼鶴林選
 大沼 鶴林
 投稿家
 一 記者

記 者

碧 梧 桐

斎藤緑雨

文壇風聞記

評論

屈原論

墮落の国民

運命の所在

精神的修養

小説

合歓花

孤兒院

柳かげ

美文

峨眉千里

卒都姿集

深山の滝

徴兵検査

寒林の孤燈

夏の夕

わびずまひ

韻文

そぞろありき

A B C 投
妖 堂

奥村 梅臯

石丸 紫水

蘆 川

血 桜 生

狂 花

前田 翠溪

松井 孤董

ゆふなみ

涙 痕 子

笛 秋

菜 花 子

戈 董

五島案山子

大 琴 生

枯 園

続杉菜集

牧人

残光

白百合

旅のなやみ

上 鷗

雜 録

冷醉漫語

一是一非

死に就いて

余 枋

甘言苦語

編輯便り

新刊月旦

記者と読者

第四編第四号 (明治三十三年一〇月) 目次

新作小説

夜汽車

零落

滋賀の浦人

名和 桂琴

橋本 嶺風

甘三 岱子

L K

岩瀬 烏鵲

秋 蓮

伊藤 白山

諸友 諸子

崑崙山

編輯子

新声記者

投稿家

内田 魯庵

徳富 芦花

春江

監督喇叭

美文韻文

わが初恋

村の白壁

法師蟬

野調

天なる嘆き

瀟洒集

新涼

秋の声

天随、春雨、風葉、花袋、鉄幹、烏水

評論・史伝

水の詩趣

詩人を評価する標準

非功名心論

韓退之伝

文士月旦

宗教界の文士

広津柳浪

少壮論客

小栗 風葉

泉 鏡花

與謝野鉄幹

田山 花袋

小島 烏水

薄田 泣菫

蒲原 有明

大沼 鶴林

金子 薫園

蚊豪青軒

雑録余枋

詩経と雅歌との唄へる恋

紫雲紅霞

峯月

(一) 文壇風聞記

(二) 文界一夕話

(三) 文士雅号譚

(四) 文界と梨園

花籠

頬白緑

平川小景

湘南の春

佐野の夕暮

茗溪を下る

秋色

風教上に於ける恋歌

俳句(二七〇局)

和歌(七一首)

漢詩(四六首)

小蚊士

中村 春雨

長広 舌

妖堂 生

某文士

玄々子

利園子

長谷川 濤涯

村雨 緑浪

紫苑

西尾 菫汀

菅 觸體

藤 袴

芦 川

碧梧桐 選

薫園 選

鶴林 選

第四編第五号 (明治三十三年一〇月) 目次

主張

風流と人格、基督教徒の没趣味

近時の小説界

己が罪壺中放語

人物

文士月旦

文壇風聞記

評論

海洋の賦

矯世と旅行

小説

水の泡

女手品師

美文

海辺の逍遙

夕暮

奥羽の秋

秋雲秋水

鞍馬の秋

桂浜の月

閑砧

韻文

名照

冷熱苦熱

虚無僧

秋の歌

初鳴

俳句

和歌

漢詩

雜録

修史余談

余枋

編輯便り

第四編第六号 (明治三十三年一二月) 目次

主張

秋の詩美

人物

文士月旦

内村鑑三氏

晩村

藤本紫夕

迷雲荳蔭

西川虹川

浪々

露の戸

河東碧梧桐選

金子薰園選

大沼鶴林選

記者と読者

記者と読者

記者と読者

記者と読者

記者と読者

記者と読者

記者と読者

記者と読者

記者と読者

妖堂足下

評論

中学改良私見

小説

水の泡(承前)

我が弟

美文

白露日記

闇の法華津坂

韻文

朱絃琴

夕の詩

逍遙外一篇

初声

晩秋の歌

和歌(四三首)

銀漢

俳句

漢詩

雜録

誌友懇話会記

富士野秋子

東海林桃涯

海賀 六華

原見 白雁

黒江 雨窓

片上 天弦

滋賀の浦人

しらつゆ

児玉 星人

暁 夢

秋 湖

金子薫園撰

高須 梅溪

河東碧梧桐選

大沼鶴林選

一、理想の妻

二、暴風雨

懇話席上にて、旅に対する観念、短文課題、人生、

校長、黒目鏡

余 枋

甘言苦語

編輯便り、新刊批評

崑崙山

第四編第七号(明治三三年一二月) 目次

主張

青年と読書

小説本の体裁

読者社会の拡張

埋葬の辞

漫言数則

人物

内村鑑三

嗚呼大西博士

文壇風聞記

高須 梅溪

一 記者

妖堂居士

兜 庵

易 水

評論

振触録

蒲原 有明

曲亭馬琴

小説

むら雨

更け行く月

美文

花譜八篇

朝の内

衣笠記

銀河小説

思い出草

土曜日の夜

多摩の晩秋

秋の暁

荒寺

韻文

伽羅柿

虫くひ葉

老樗の歌

秋の響

俳句

和歌

中村さくら

漢詩

藤 ふみ

三村 薫風

梅 皐

楚 江

烏 江

袖 几帳

玉島案山子

わか葉生

北久保清雲

高 水

あかつき

滋賀 浦人

暁 夢

関戸 紫苑

春 江

碧梧桐 選

金子 薫園

大沼鶴林選

雜録

弦月会記事

饒舌録

楊南几北

錆び刀

人生に対する観念聯想

余 枋

編輯便り

新刊批評

第五編第一号 (明治三四年一月) 目次

新 声—吾人の態度を表明す—

文芸小観

第廿世紀を迎ふ

青年の自覚

理想と信仰

将来の文壇

社会時言

成功の予約

寛容なれ

関戸 紫花

八重 桐

峰 月

海辺の黒人

記者と読者

新声記者

新声記者

與謝野鉄幹に与ふ

人物

島田沼南

文壇風聞記

評論

處世箴

青年詩人に望む

小説

イギリス銀杏

寒月

元旦

二本松城

美文

雪沓土産

山色水態

馬背録

韻文

星眸

希望の歌

野中の清水

花摺衣

奥村 恒

奥村 恒

妖 堂

大町 桂月

高橋 山民

小栗 風葉

緑雨、零露

変 哲

中村 春雨

田口 掬汀

ゆふなみ

植野 梟東

蒲原 有明

片上 天紘

藤本 紫夕

児玉 星人

面影

にほひ

俳句

和歌

卯月会詠草

雁影

漢詩

辛丑新年

雑緑

従軍余談

作家苦心談

新年第一声

天外の一言

酒について

余枋

甘言苦語

編輯便り

新刊月旦

挿絵

牛乳乙女

獵師。大平茶屋（東北土産）

白 露

紫 苑

碧梧桐選

金子薫園選

薫 園

大沼鶴林選

鶴 林

王 秋 林

某 文 士

青 山 骨

む て ふ

諸友諸氏

記者と読者

一條 成美

平福 百穂

第五編第二号 (明治三四年二月) 目次

新 声

成功に於ける理想的人物

文芸小観

文芸の危機

理想の文壇

寄席の改良

社会時言

薄志弱行の徒

愚人なき乎

陰險な鼠輩

徳孤ならず

人 物

松村介石

文壇風聞記

評 論

小説家黒白論

廿世紀と我國民

小 説

イギリス銀杏

白百合

美 文

畸形児

捨草鞋

秋の夕

横倉山

僕の毎朝

欸乃記

ゆふつつ

韻 文

わか草

挽歌

夢見草

小燭賦

羌笛

和歌

吁月嶋丸

白鳩

俳句

漢詩

雜 録

従軍余談

高須 梅溪

黒江 雨窓

潮 音

逆水 魚郎

雛 声

烏 江

寥 木 庵

藤本 紫夕

片上 天弦

関戸 紫苑

児玉 星人

暁 夢

金子薫園選

卯 月 会

窪田うつば

河東碧梧桐選

大沼鶴林選

王 秋 林

読片破月

だいぶつ

三宅雪嶺

高須 梅溪

風の観想

投稿家諸子

文壇風聞記

妖堂居士

我党風聞記

幼童居士

評論

妖堂居士

名古屋誌友会

発起者の一人

字音假名遣に就いて

田口 掬汀

余 枋

悪の観念

中村さくら

甘言苦語

崑崙山

小説

終 灘

黒眼児、阿羅漢、仁王閣

崑崙山

イギリス銀杏

小栗 風葉

編輯便り

一 記者

浮寝鳥

啞 蟬

挿 画

一條成美、山中古洞、平福百穂

窮鳥記

紫 洋

第五編第三号 (明治三四年三月) 目次

美文

莊司 華石

新 声

現代青年の悪弊を排す

世捨人

片上 天弦

文芸小観

まぼろし

泣 花

人格の勢力

機敷ヶ岳の月

斎藤 紫軒

社会時言

写生帖

北 海

見世物小屋

(一) 写實三十分

北 海

矯風の機関

(二) 清潔方検査

泉 邑

形式の慈善を去れ

(三) 湯屋の中

翠 柳

人物

韻 文

荒磯

人物

荒磯

紫

人物

荒磯

紫

揚羽蝶

伴狂吟

若緑

滴々露

和歌

小琴

俳句

漢詩

雑録

亡国猶太

幕末逸話

霞の観想

余枋
甘言苦語

緑雨より流水

新刊紹介、編輯便り

挿画

平福百穂、一條成美、鏑木清方

キツプリング董の神の有心無心(写真版)

星 人

あぢさい

芦 鳴

秋山 梧井

金子薫園選

う つ ぼ

河東碧梧桐選

大沼鶴林選

浅野 笛秋

蕾園 主人

第五編第四号(明治三四年四月) 目次

新声

大に伝記を読む

文芸小観

読書について

作家の苦心

社会時言

田園の裏面

人物

三宅雪嶺

評論
真山氏の詩

雪の観想

小説

毒水

千鳥ヶ淵

姉妹妻

美文

愛の答

白すみれ

帰雁

高須 梅溪

奥村 梅臯

中村さくら

田口 掬汀

霧の山人

静 香

浪 痕 子

孤 洲

わ か ば

写生帖

(一)花ちゃん

(二)洗場

韻文

面影

吁嗟

鈴紫胡

花影

玄鳥

俳句

和歌

垂柳

卯月会詠草

漢詩

雜録

文壇照魔鏡について江湖の諸氏に訴ふ

新聞社の裏面について新聞記者に問ふ

学校皮相観

余枋

甘言苦語

編輯便り

春珠木

楚江

あぢさい

葉舟

星人

暁夢

泣薊

碧梧桐選

金子薫園選

福田氏等

卯月会

大沼鶴林選

高須梅溪

正岡芸陽

介陽生

同人

記者

新刊月旦

挿画

文士肖像（抱月、水蔭、鳴雪、碧梧桐）

第五編第五号（明治三四年五月）目次

新声

大々功名心

文芸小観

作者と作物

軽浮なる文学

社会時言

一種の奴隸

人物

山路愛山

文壇風聞記

評論

文芸的批判

真山氏の詩

小説

ゆく水

月夜の別れ

記者と読者

高須梅溪

妖堂居士

西村真次

奥村梅阜

高橋月朗

柳城子

柳城子

木葉舟

植野 鴨村

菖蒲

記者と読者

美文

附 録

田口 掬汀

花環

志をむ

附 録

田口 掬汀

暮雲

悶の子

與謝野寛对新声社誹毀事件顛末

田口 掬汀

磯がたり

ゆふなみ

備考(岡野)

田口 掬汀

農夫

荘司 華石

「文壇照魔鏡」事件起り、梅溪、駒十郎、鉄幹より訴えらる。無罪となった。岡野著『明治言論史』に詳記。

写生帖

黒眼 児

第五編第六号臨時増刊(明治三四年六月)

田口 掬汀

(一)深編笠

丹尾 彦

卯花 衣 目次

一條 成美

(二)春の野辺

井上 春美

行く春(絵画)

島村 抱月

(三)圧制

桜木 夕汐

文芸と道徳(評論)

菊地 幽芳

(四)海辺の夕暮

寿 吉

大原の春色(美文)

金子 薫園

韻文

あぢさい

おもかげ(韻文)

中村 春雨

朝潮

星 人

道すがら(小説)

福田 義三

愛の国

折竹 暁夢

絵日傘(和歌)

尾上 柴舟

莫鳴草

碧梧桐 選

棹影(韻文)

碧 梧 桐

俳句

金子薫園 選

俳句

高須 梅溪

和歌

大沼鶴林 選

海のひとり(美文)

卯月 会

漢詩

K Y 生

卯花垣(和歌)

正岡 芸陽

漫言二三

福地桜痴(評論)

福地桜痴(評論)

正岡 芸陽

雑 録

福地桜痴(評論)

福地桜痴(評論)

正岡 芸陽

君やわれや (韻文)

吊桜 (美文)

読吊桜記 (和歌)

若鮎 (同)

うづしほ (小説)

春宵 (和歌)

解纜賦 (韻文)

深林の瞑想 (美文)

花染衣 (同)

森の泉 (同)

瓢遊記 (同)

黒瞳 (同)

『野の花』序

若き心 (美文)

落日賦 (韻文)

若葉蔭

(一) 弦月会小集

(二) 名古屋誌友会

(三) 広島誌友会

弦月会

平白棒

蒲原 有明

田口 掬汀

金子 薫園

鬼 仏 等

佐野 天声

服部 等

左 右

西村 酔夢

黒江 雨窓

関戸 紫苑

山本 如夢

白柳 秀湖

田山 花袋

わか 葉

片上 天弦

獵 矢

(一) 鉄幹の妄言

(二) 聞書

(三) 梅溪君足下

(四) 江湖の声

斃 虎

百 棒

第五編第七号 (明治三四年六月) 目次

新 声

修養の一助

文芸小観

小説の新要求

社会時言

逆境の青年

人 物

竹越三又

文壇風聞記

子規の近状

評 論

半可通の詩人

梅 溪

春 雨

春 鱗

緑 雨 蔭

正岡 芸陽

妖堂居士

左 千 夫

重村 劍俠

大志大節あれ

小説

通夜僧

美文

首途

玉章

四阿舎

なやみ

夏菊

花の故郷

月

春雨日記

鎌倉山行

写生帖

(一) 冷露

(二) 信ちゃん

韻文

柳辺微吟

ゆかり

相思鳥

蜀魂

山村 魁南

杉本 琴洲

登阪 北嶺

黒江 雨窓

山田 翠山

塵の子

晩村

桜巷子

華石

遠藤かつら

岡安 雨琴

楚江

静秀

江上 貞子

しらつゆ

紫陽

児玉 星人

罪のくさり

新月

新鶺鴒

俳句

漢詩

雑録

川柳の研究

俗吏談

春期遠足会

読塵影録

甘言苦語

編輯便り

新刊漫計

第六編第一号(明治三四年七月) 目次

新声

詩に現はれたる信仰

文芸小観

文壇の諸家

天才と道徳

「恋と恋」合評

阿弥次

金子薫園選

卯月会

碧梧桐選

大沼鶴林選

久良岐

瘦骨坊

樺村 敷島

白亭

社中同人

一記者

記者と読者

社会時言

公德問題

三箇の瓦斯燈

人物

田口鼎軒 人物の標準

評論

自己に対する信仰

文士に与ふる書

小説

浮草物語

美文

梅

勿忘草

水馴棹

羽黒山

半日記

緑蔭

寫生帖

(一)留任運動

(二)夕暮

(三)朝の道

馬頭

独尊子

北嶺

田口掬汀

中村さくら

白露

高橋月郎

荒木枯園

中井琴泉

服部江風

緋微辨

桜木夕汐

窈窕生

韻文

鑿の手

清韻

志らつゆ

晚調

ちきれ雲

黄なる人

俳句

和歌

雜録

松下村塾

ジョンブル

川柳の研究

断霞録序

闇夜の緬想

富山誌友会の記

卯月会例会

あどけな記

甘言苦語

編輯便り

左憂

橋本嶺風

南峯

紫石

碧梧桐選

薰園選

杉山天鷄

GY 訳

久良岐

碧梧桐

西村醉夢

発起者

甲の鳥

くろめ翁

社中人

一記者

第六編第二号（明治三四年八月）目次

新声

嘲罵に対する見解

文芸小観

青年の伴侶

英文学史

社会時言

夏と罪悪

友の情味

人物

徳富芦花

評論

任俠論

作家の主眼

満足と失望

小説

遺言状

美文

合宿

月見草

霜夜吟

淡紅

寫生帖 パノラマ

韻文

幼き人よ

登臨賦

あを梅

憂愁

鶯を吊ふ歌

俳句

青葉若葉

漢詩

雜録

ジョン・ブル

揣摩録

避暑端書

誌友評壇

余枋

甘言苦語

編輯便り

新刊漫評

記者と読者

狂花

黒眼児

片上天弦

泉声庵

差有

紫陽

董雨

碧梧桐選

金子薫園選

大沼鶴林選

G Y 訳

梅溪

久良技

誌友諸子

第六編第三号 (明治三十四年九月) 目次

長 虹

評論

文芸雜観

西園寺候

詞賦の一大理想

現時文壇の欠陥

英雄と美術

新理想と旧理想

小説

おくり火

星

行く水

研究

人民と詩人

道行惟然

人物

西園寺陶庵候

黒岩涙香

森鷗外

美文・韻文

東北漫吟

毛虫十句

田植十句

魚山の記

喇嘛行者

好事近

近作

嚼氷十韻

秋雜吟

遊清雜詩

鏡ヶ浦

夏季雜吟

五串溪

松下吟

露

野人の歌

古き聖書

送手島海雪

水戸途中

朝靄

羽山歌

佐々木信綱

内藤 鳴雪

高浜 虚子

菊地 幽芳

国府 犀東

森 槐南

亀谷 省軒

服部 躬治

碧 梧 桐

釈 清 潭

中村 春雨

佐藤 紅緑

本田 種竹

久保猪之吉

阪本四方太

高橋 山風

生田 葵山

野口 寧斎

関沢 霞庵

金子 薫園

国府 犀東

驟雨

山独活花

銷夏読書吟

いと萩

近作

芙蓉

局外観

社会と文学

社会の渴望と小説

家族と小説

趣味の低落

雑録

袖のかほり

湖村絮絮談

続避暑端書

新博士物語

岩溪 裳川

阪井久良枝

大沼 鶴林

尾上 柴舟

青 々々

落合 直文

大隈 伯爵

島田 三郎

鳩山 春子

志賀 重昂

後藤 宙外

桂湖 村

久良 伎

鹿島 桜巷

新時代の予想

「己の罪」合評

社会時言

独立生活

人物

徳富芦花

文壇風聞記

評論

與「帝国文学」記者

青年観を読む

美文

暮愁

ふる郷

我情史

大内嶺

うき旅

没岸の一瞥

面影

燭影偶語

日光

志らはと

高須 梅溪

妖堂居士

正岡 芸陽

西村 醉夢

白柳 秀湖

浦瀬 緑郎

河原 松声

橋本 嶺風

久木 東天

虹 波

天 弦

西川 春吉

春 陵 生

柳 麗子

新声

第六編第四号 (明治三四年十月) 目次

塵埃中の詩人

文芸小観

祈れよわが手下さむ

雁来紅

白萩

みち汐

夕雲

漢詩

雑録

ジョン・ブル

山水端書

記者諸兄

甘言苦語

編輯便り

揣摩録

新刊略評

蒲原 有明

金子薫園選

川合 玉堂

長谷川濤涯

卯月会詠草

大沼鶴林選

無礼の言

立派なる文士

家庭小説

「馬骨・人言」

宗門の維新

社会時言

寄席亡国論

矯風事業

女工問題

人物

書齋観

評論

新声記者諸彦に与ふ

小説

夏虫

美文

ささら波

月の大長寺

縁日

牧場の暮

田園生活録

玉秋 林

奥村 梅溪

田口 掬汀

久保るの吉

高須 梅溪

丸山 英

内藤 夕波

大久保清雲

新声

第六編第五号(明治三十四年十一月) 目次

文学者の没趣味

文芸小観

言文一致

論壇人なる乎

韻文

狭霧集

江上悲曲

春風

野菊

卯月会詠草

俳句

漢詩

雜録

弦月会の記

弦月会祝辞

宝冠

社会主義概評をよむ

あどけな記

甘言苦語

編輯便り

新刊漫評

記者と読者

暁 夢

菅野 雪城

春 陵 生

金子 薫園

卯 月 会

河東碧梧桐選

大沼鶴林選

萍 緑 庵

久 良 伎

国府 犀東

正岡 芸陽

黒 眼 児

去年せられたる文学者

文芸小観

終始一貫なれ

思想の沙漠

無声会合評

社会時言

今日主義

人物

坪内逍遙

評論

日本美術展覧会評

コラン氏塾罰則

無智の安立

巢林子の一側面

小説

霜枯

美文・韻文

甘の日

銀杏樹のほとり

鎮守祭

晩秋

文芸記者

掬汀生

藪 睨 生

梅 溪 生

奥村 梅臯

田口 掬汀

△△△△△

生田 弘治

登阪 北嶺

海賀 変哲

春 陵 生

片上 天弦

遠藤 桂風

石井 楚江

新 声

第六編第六号 (明治三十四年十二月) 目次

池上会式

暮愁

埋火

芦花

漢詩

雜 録

人種混同

書齋觀

前号短歌合評

讀決死隊

吹浦誌友会

あどけな記

甘言苦語

編輯便り

新刊紹介

記者と読者

第七編第一号 (明治三五年一月) 目次

其 一

迎歳の辞

回顧と前途

掬汀生

児玉 星人

碧梧桐選

金子薫園選

大沼鶴林選

国府 犀東

玉 秋 林

筍 睨 会

正岡 芸陽

翠 柳 生

くろめ翁

萬朝報記者

人物偶評と「一年有半」

孤慎録

忘れられたる山田一郎

文壇風聞記

其 二

薄紅梅

海城

海への朝

朝潮

罪

銃獵

町の酒屋

群星

新年雜詠

死灰

燈影

寒梅

古郷の秋

朝霜

死の影

無名記者

阪井 松梁

河野 紫雲

正岡 芸陽

妖堂居士

さむしろ女史

尾上 柴舟

内田 夕闇

内田 夕波

中野 紫紅

山田 翠山

本多 正

島村 露花

佐藤 紅緑

白柳 秀湖

桜木 夕汐

金子薫園選

高橋 月郎

卯 月 会

菅 汀水

俳句

新年雜詠

漢詩

壬寅元旦書懷

叙景詩とは何ぞや

其三

巴里通信

書齋觀

甘言苦語(一)

甘言苦語(二)

編輯便り

甘言苦語(三)

新刊略評

附録

新鶯曲

鷄声

大森の元旦

元旦の貧民窟

謹賀新年

壬寅元旦作

碧梧桐選

碧梧桐

大沼鶴林選

大沼鶴林

中村知子太

王秋林

黒眼児

不動尊

一記者

阿羅漢

蒲原有明

金子薫園

高須梅溪

田口掬汀

正岡芸陽

奥村梅臯

第七編第二号(明治三五年二月)目次

文芸小観

醒覚の機来らんか

沙上放語に冠す

第六回新刊短評 「梢の花」小栗風葉作、「有美臭」

青柳有美著、「はやり唄」小杉天外作、「アナクレ

オン」木村鷹太郎著

社会時言

(話題)

萬朝報記者(下)

天才

快男子正造翁

孤憤録(承前)

「一年有半」を読む

雨劇の調和

歌洗小町

冬の海

湖畔のおもひ

枯生

笛の音

初冬の日

梅溪

無名氏

正岡芸陽

梅臯生

河野紫雲

阪井松梁

崑崙山客

柳水稿

紫苑

白蒲

紫夕

寺田桐月

紫禅

茅渟の海紀の海(一)

哀愁記

春寒

霰の音

俳句

漢詩

暮の雪

「叙景詩」を読みみて

甘言苦語(一)

美術的食堂論

甘言苦語(二)

甘言苦語(三)

八面鋒(読書文稿)

甘言苦語(四)

編輯便り

新刊略評

夕 汐

千早 霞城

金子薫園選

北 嶺

碧梧桐選

大沼鶴林選

真部 勝水

久保猪之吉

黒 眼 児

掬 汀 生

ほゝれ生

罵候観音

不 動 尊

一 記 者

新聞と文芸評論

大同情家

其 二

裸躰画を排す

読「宗教文学」

突飛なる文士生活

我雜誌観

其 三

わが妻

磯守

我家庭

銭塘観潮歌

尺八の声

斎王宮の辺り

水夫の歌

氷柱

誰れが罪

秋思客

春雨

春風

白鳥

新声記者

新声記者

登阪 北嶺

正岡 芸陽

生田 星郊

緑 痕 子

高須 梅溪

黒江 雨窓

白 王

釈 清 潭

かれそめ

露の花子

真部 桂葉

碧 梧 桐

植野 鴨村

香 骨 子

長谷川喬村

岡 稻里等

中野 紫紅

其 一

第七編第三号(明治三五年三月) 目次

文芸の求道者

「黒塗馬車」合評

新声記者

藪 睨 会

春風

白鳥

岡 稻里等

中野 紫紅

鴨東新詠

木がらし

共同椅子

春画

春水

解剖室

花東

俳句

俳句選につき

漢詩

黙閑

其四

劇界瑣言

名家不名家歴訪録

「春寒」を評す

現今の新聞紙

京都来信

甘言苦語(一)

甘言苦語(二)

甘言苦語(三)

八面鋒

奥村 梅臯

野村 董雨

夢 之 助

金子薫園選

川合長流等

莊司 華石

平井 晩村

河東碧梧桐

編輯 子

大沼鶴林選

日 月 庵

崑崙山客

阪井 松梁

歌 狂 生

湖 涯 生

田口 掬汀

阿 羅 漢

黒 眼 児

不 動 尊

誌友諸子

編輯便り

編輯 子

第七編第四号(明治三五年四月) 目次

其 一

新演劇の悪弊 新声記者

新声記者

新刊月旦「詩聖ダンテ」「驕慢児」「印刷雜誌」

「当代十二女傑」「上田先生に献ず」

校風と学風

新声記者

其 二

バイロニズム

正岡 芸陽

自作自評

花房 柳外

意志の満足

河野 紫雲

下馬評

掬汀 生

訪問に就いて

閉口庵

其 三

萌黄彩色

国府 犀東

乱調一曲

有本 次郎

小天地

と い ち

病床日記

莊司 華石

草笛

中原 汐花

柴笛集

黛 花女

我は汝を蛇と呼ばん

月の夜

窓の緋桃

香雨楼詩膳

春思

そのけはひ

花信

光明

雪の夜

琴の音

和歌

俳句

漢詩

其 四

「亡国の縮図」を賛す

当今の新聞紙

美術研精会

前号歌壇

紅梅笠

読者文壇

十万部と三日

一 記者

桂 城子

白 王

奥村 梅阜

錦 水

足立 牧笛

K T 生

霞 柳 郎

寺田 桐月

春 陵 生

金子薫園選

碧梧桐選

大沼鶴林選

登阪 北嶺

湖 涯 生

閑日 月庵

たかむら

山田 叻堂

誌友諸子

京都所司代

甘言苦語(一)―(四)

阿羅漢

木葉生

不動尊

編輯便り

新刊紹介

第七編第五号 (明治三五年五月) 目次

其 一

日本美術院派の絵画に対する吾人の

所感

无声会合評

海外騒壇

武士道の復活

喜憂録

寄席新声館の椿事、二六記者事件

其 二

人物月旦

文壇の二敗将

ゴールドスミス

幸福の妨害物

黒眼児

編輯者

新声記者

藪 晚 会

正宗 白鳥

新声記者

新声記者

斎藤 弔花

高須 梅溪

嶺 軒 生

乱調一曲の作者に
不問語一ツ橋少年

其三

月の夜

神廟のほとり

桜川

白薔薇

罪のなやみ

川くだりの巻

誰れが罪

春雨日記

花籠

渡良瀬河畔

五月雨

神鹿

谷の草

哀傷

紅梅に濺ぐ春雨を見て

墓畔

べにさら

道中花見笠

花房 柳外

登阪 北嶺

島村 露花

桑田 春風

荘司 華石

北村 碧潭

寺田 桐月

植野 鴨村

河野 楓人

松倉 芦鳴

たそがれ

高須 梅溪

T 生

谷部 惟村

内田 夕闇

川野 紫汀

大友 霧村

中野 紫紅

帳場 同人

新声歌壇

俳句

夏季雜吟

漢詩

新体詩

其四

児童小観

のぞみの星を評す

警告の声

読者文壇

解嘲

珍派園友会

別れ路漫評

甘言苦語

「孤山遺稿」を読む

予告二件

編輯便り

新刊紹介

金子薫園選

碧梧桐選

佐藤 紅緑

大沼鶴林選

蒲原有明選

中村さくら

登阪 北嶺

新声記者

誌友諸子

叙景詩選者

珍派子

うきくさ

同人

梅溪生

記者

第七編第六号 (明治三五年六月) 目次
其一

日本美術院派の絵画に対する吾人の

所感

新刊漫評

海外騒壇

武士道の復活

東京下宿屋論

其二

小杉天外

荒木又右衛門の仇討

寸閑寸筆

某大家の演芸談を読む

魯庵の近業

其三

運命

潮のほとり

麦笛

低唱

覆面牧師

磯浜づたい

卯の花山

野歌

新声記者

藪 睨 会

正宗 白鳥

新声記者

田口 掬汀

縦 横 生

長井 金風

河野 省三

花房 柳外

緑 痕 生

高橋 月郎

大友 霧村

片上 天弦

鈴木 狭花

鶴羽 生訳

荘司 華石

白 王

中原 汐花

病床

暮春の矢口

火打焼

落海棠

檻樓錦

夕立

血坂

漫言

穴の蛇なる

バラッド

新声歌壇

俳句

漢詩

其 四

身の上判断

研精会を介す

警告の声

青年の娯楽

昔がたり

読者文壇

甘言苦語(一)(二)

よしを

吉植 愛劍

斎藤 紫軒

星 草

野村 董雨

掬汀 生

監野 桜溪

小 隠 士

鈴木 狹生

浦瀬 白雨

金子薰園選

河東碧梧桐選

大沼鶴林選

黒眼児

間日月庵

文士肥瘠論

新声記者

誌友諸子

緑 痕 子

誌友諸子

黒眼児

阿羅漢

崑崙山

第八編第一号(明治三五年七月) 目次

其一

文芸の開發と地理的關係

悪劇の標本

海外騷壇

武士道の復活

東京下宿屋論

其二

陸羯南論

人物評論家評論

学校競売

二詩人の対照

其三

阜雨賦

紙雛

朝窓

葵鬢

自殺

捨扇

籠の音

やま鳩

僑居吟

旅衣

廃駅

懐旧

茶の花

さみだれ

暮靄

幻影

鐘楼

平方晝声盡

夕雲

その面影

血痕

江村の夕

和歌

俳句

漢詩

其四

六月十三日午後

小説大学趣意書

前号の新声壇

△△△△

平井 晚村

内藤 夕波

山田 翠山

杭 子

小寺 孤蝶

原 星花

中野 紫閣

内田 夕闇

燕子 花

桜木よしを

落 峰

U K 生

清家 紫禅

金子 薰園選

河東碧梧桐選

大沼鶴林選

投書家諸君

四ツ目入道

喬 村 生

警告の声

明治の戯作者

読書文壇

文芸巷開

甘言苦語(一)(二)(三)

編輯便り

新刊紹介

新声記者

内田 茂文

投稿家諸君

崑 崙 山

黒眼、不動尊、阿羅漢

其 三

二見浦

苧環

鳩を放つ歌

古月琴

繩床吟

蜆壳

野鶉

夕すずみ

微笑

乙女心

雲のゆきかひ

終焉の少女

追憶日記

汐馴衣

和歌

贅語録

俳句

漢詩

其 四

藤ころも

西村 酔夢

歌 男

しらつゆ

児玉 星人

松倉 芦鳴

大石 霧山

小野 昌子

中島 葩香

前田 肥洋

たか子

あぢさい

中野 紫紅

塵の子

井上 進

金子薫園選

金子 薫園

河東碧梧桐選

大沼鶴林選

登阪 北嶺

第八編第二号(明治三五年八月) 目次

其 一

文界の時潮

社会百面相

海外騒壇

国民自省の声

喜憂録

東京下宿屋論

其 二

人物月旦

島崎藤村

水滸伝中の人物

美一美一

新声記者

掬汀生

正宗 白鳥

新声記者

新声記者

田口 掬汀

漢詩

俳句

漢詩

其 四

藤ころも

警告の声

伊東たより

啓上記

各地の迷信

明治の戯作者

蓄髯観

八面鋒

甘言苦語(一)(二)(三)

新刊紹介

なかだち

新声記者

梅 溪 生

網代茂文

投書家諸子

内田 茂文

緑 痕 生

読者諸君

黒眼児、崑崙山、阿羅漢

一 記 者

誌 友

詩及小説

常久のうらみ

新涼

月下小説

金竜山

暗流清流

幻影

藤ころも

月の神廟

橋上の吾

世界のはて

新声歌壇

俳壇

募集二件

雑

一是一非

文壇未来記

螳螂の斧

警告の声

「遊子」を讀みて梅溪君に寄す

不動尊、崑崙山

馬場 孤蝶

金子 薫園

高橋 月郎

すゝむ

香 骨 子

孤舟 漁郎

登阪 北嶺

大友 霧村

嶋村 漁州

中根 紅雨

金子薫園選

碧梧桐選

誌友諸子

小予言者

池上 武郊

新声記者

奥村 梅臯

論

第八編第三号 (明治三五年九月) 目次

もでる養生論

社会時言

何等の光栄

今後の態度

海外騒壇

女学生の腐敗

秋山定輔論

甘言苦語(一)(二)(三)(四)

新声記者

新声記者

黒眼児、阿羅漢、

正宗 白鳥

藪 暎 会

長井 金風

馬嘶録

河野 紫雲

海嘯(一)

平福 百穂

読者文壇

誌友諸子

荒村の曙

進藤 溪韻

小説読者仕訳

緑 痕 生

匂ひ

内田 夕闇

蓄髯観を読みて緑痕子の妄を弁ず

黒 眼 児

残紅

中原 汐花

絵団扇

く の じ

萍

松倉 芦鳴

新刊紹介、黒眼、崑崙、なかだち、なかだち子

私語

董舟子

第八編第四号(明治三十五年十月) 目次

論

文壇戯画

新声記者

秋思篇

中島 葩香

危言横行の時代

新声記者

合ひ宿

耶馬 青朱

海外騒壇

正宗 白鳥

(募集小品)

ドミトリ・メレジュコフスキー「婦

藪晚會合評

金魚鉢

晚 村

人は結婚すべき乎」を評す

藪晚會合評

その夕

東 天

広津柳浪論

登阪 北嶺

月の夕

夕 天

甘言苦語(一)(二)(三)(四)

黒眼児、阿羅漢、不動尊、崑崙山

初秋夜半吟

無 可 為

東京下宿屋論

田口 掬汀

露

田波 水韻

詩及小説

田口 掬汀

向日葵

金子 薫園

籠の鳥

平方 暁声

新声歌壇

金子 薫園選

流水怨

菅野 雪城

新声(漢)詩壇

河東碧梧桐選

大沼鶴林選

雜

識面録

悼正岡子規

海嘯地視察

日本について

警告の聲

秋の夜話

八面鋒

新刊紹介

国府 犀東

新声記者

掬汀 生

メヒレル

新声記者

誌友諸子

誌友諸子

新声記者

綜合的宗教の天才

漫言

「野守草」を読む

由々しき大事「万朝」抜粹

東京下宿屋論

詩

秋の宵

海颯歌

ヲヘラチオン

鹿兒島だより

暁霧

題宰府遊草

病院

汐しぶき

鳩の歌

迷

おもかげ

繪はかき

鶯塚

陪葬記

暁色

西内 藤男

源 崑崙

蒲原 有明

田口 掬汀

白 王

桑田 春風

莊司 華石

岡本 春陵

長谷川 喬村

大沼 鶴林

木暮 刀水

前山 肥洋

福井 啓二

伊沢 秋湖

伯 魯

香 骨 生

吉植 愛劍

秋山 冽水

遠藤 桂風

論

第八編第五号 (明治三十五年十一月) 目次

雜誌裝飾の必要

新なる家庭小説を要求す

危機に対する自覚

詐欺的寄宿舎

海外騒壇

巢鴨の二哲人

与掬汀兄

甘言苦語(一)(二)(三)

善意の罪惡

平福 百穂

新声記者

大 学 熱

新声記者

正岡 白鳥

暁 雨

伊藤 銀月

黒眼児、間日月庵、阿羅漢

斎藤 潮歌

仙女歌

愁の児

牧場

小品文(短文)

中原 汐花

木暮 刀水

平井 晩村

愛楼子、中島葩香、

平井晩村、げつらふ、

畑竹堂、夕 汐、

後藤遼谷、斎藤美笑

薰 園 選

碧梧桐選

大沼鶴林選

俳句新註

前号の歌壇

秋の夜話

夜雨随感

小説と肉躰美

読「魔詩人」

警告の声

八面鋒

編輯便り

佐藤 紅緑

喬 村 生

寄稿家諸子

奥村 梅阜

不 動 尊

R V 生

一 記 者

投稿家諸君

一 記 者

論

第八編第六号(明治三十五年十二月) 目次

美術品陳列

紅葉山人の頌徳

田園に於ける修学

市川団蔵

甘言苦語(一)―(五)

尊、崑崙山

識面録

詩

ゆく水

十二月三日

狂嵐

十二月三日

断腸記

緑の影

野分

胡茄

秋韻

初冬日記

野守の小屋

新声記者

青八山人投

新声記者

青柳 有美

阿羅漢、不動

国府 犀東

馬場 孤蝶

掬 汀

鴨 村

梅 溪

吉川 村雨

さくら

愛 劍

夷 薇

泣 琴

萩原 愛桜

中村 翁

十一月三日

薫 園

第九編第一号 (明治三十六年一月) 目次

原 抱一庵

見あひ

鈴木 狭花

渠の大演説

伊藤 銀月

夜の梅

中根湘紅雨

一種の文学 一種の美術

馬場 孤蝶

朝霧

松本 湘江

鐘の音

青柳 有美

筏舟

前山 肥洋

喫煙の原理

田口 掬汀

ちちろ虫

晩 村

機動演習

金子 薫園

洞蕭賦

芦 鳴

あかつき

高須 梅溪

磯の涙

山本 露滴

大磯行脚記

登阪 北嶺

夕霧

内田 茜江

残月

長谷川喬村

池

黛 岳

霜氣

(小品文) 君郎、汐花、白梅、晩村、黄洞、秋星、

甘言苦語(一)―(四)

赤童子、瘦法師、閒日月庵、不動尊

新声歌壇

金子 薫園

押川方義論

青柳 有美

新声俳壇

佐藤 紅緑

夜の潮

片上 天弦

新声詩壇

大沼 鶴林

参差録

服部 躬治

雑

漫壇興

岡 稻里

上毛誌友会の記

文来来記

寄稿家諸氏

俳句新註

佐藤 紅緑

元旦書懷

大沼 鶴林

秋の夜話

八面 鋒

慶応義塾の人

一 閑 人

新刊紹介

水仙

夕波、白露

炉辺閑話

山勢松韻

阪井久良伎

創作見本帳

智識欲罪惡

評處世歌

悼高山樗牛

無言直指

暮砧

海への慰め

夢の行方

青春怨

折鶴

俳句新註

作句経験談

にじり書き

俳句

漫言

和歌

漢詩

自大晦日正午至元旦午前

廓情の旗色

八面鋒

備考(岡野)

兵 六 玉

草村 北星

平出 露花

高須 梅溪

べにくさ

の もり

内田 夕闇

中原 汐花

和田 月城

平井 晩村

佐藤 紅緑

内藤 鳴雪

河東碧梧桐

碧梧桐選

金子 薫園

薫園 選

大沼鶴林選

寄稿家諸子

河野 紫雲

投書家諸子

論

第九編第二号(明治三六年二月刊) 目次

本号には、本誌の執筆者、寄稿家並に新声同人、下記各氏の肖像を掲載した。

幸徳秋水、伊藤銀月、馬場孤蝶、結城素明、田口掬汀、高須梅溪、金子薫園、平福百穂、押川方義、青柳有美、長井金風、菊池幽芳、阪井久良、草村北星、角田浩々、歌客、佐藤紅緑、石井露月、薄田泣菫、中島孤島、中村春雨、押川春浪、永井荷風、西村醉夢、斎藤弔花、大客鶴林。

寄稿家に警告す

三社募集の歌

成功と不成功

教育家を戒む

佛教界の形勢

甘言苦語(一)―(五)

罪惡の快樂

下田歌子論

詩、美文、小説

棚無小舟

リンネット

三つ栗

新声記者

藪 暎 会

新声記者

仙岩、半骨、沙正、不動、兵六

田口 掬汀

芙 久子

井上 進

加島 汀月

喬 村

花日記

恋乎夢乎

我妹に

新年冥会

築波の秋

冬枯の暁

紅と白

貧人の声

暮れゆく秋

石仏の歌

たそがれ集

紅毛毬

悠久

和歌

俳句

漢詩

雑

蝦茶式部日記

劇界瑣語

ポストン便り

「人の罪」を読む

美土露醉香

平川 碧

華 石

愛 桜

大友 霧村

吉田 抱水

中根 紅雨

松本 春潮

島村 空花

内田 夕闇

山本 露滴

平井 晩村

夷 希 微

薫園 選

碧梧桐 選

鶴林 選

井 月子

崑 崙

木下藤二郎

洋々生

「浜子」を評す

八面鋒

編輯便り

来号予告

第九編第三号 (明治三六年三月) 目次

論

鶏冠国民

如何なる書を読む可きか

今は奈何なる時ぞ

未来の教育家

早成と晩成

甘言苦語(一)―(四)

押川方義論を読む

小説

片瀬川

洪水

網小屋

詐偽取財

詩

冬の日

前 黒 眼

仙巖、半骨、緑痕、沙丘

山 月 子

田口 掬汀

藤山 魚川

秋山 冽水

白柳 秀湖

山同 董雨

老僧物語

菊

紅葉

川千鳥

湯煙

暮愁

離別の歌

春曙

哀楽

朝溪

和歌

俳句

漢詩

雜

準備記者を募る

法律上より見たる結婚

懸賞募集広告

独醒語

新刊評論「曲亭馬琴」以下数篇

八面鋒

編輯便り

中根 紅雨

破 琴

碧 法師

愛 桜子

薰 峰

中原 汐花

山本 露滴

晚 木

平方 暁声

前山 肥洋

薰 園 選

碧 梧桐 選

鶴 林 選

平出 露花

不 動 尊

次号予告

備考(岡野)

(本号には、本誌刷新の広がある)

第九編第四号(明治三六年四月) 目次

論

貯金文学

「日本画の将来」というに就きて

馬車馬渡の高徳

論文の出でざる理由

素封家の子弟に告ぐ

甘言苦語(一)―(四)

マホメットを論ず

「英雄僧日蓮」序

文庫の「菊五郎死後の劇壇を論ず」

を駁す

新進作家を評す

落葉言

東京人と大阪人

小説

村の平和

仙巖、牛骨、沙丘、崑崙

叻 鹿 庵

田岡 嶺雲

花房 柳外

斎藤 吊花

内山 紫羽

藪 睨 会

徳田 秋声

残月

無声会招待卷

血の姿

冬の夜

詩

貧民窟

徜徉一時間

月夜行

紙雛

詩貧

絶望の夕

月の白百合

夕残の愁

青春夢

筑波山を憶ふ歌

落椿集

星影

紅涙吟

かの聖僧

和歌

俳句

登阪 北嶺

平福 百穂

藤山、魚川

内田 夕闇

片上 天絃

吉田 抱水

吉植 愛劍

中嶋 葩香

金子 薫園

中原 夕花

前田 洋三

宮家 紫庵

中野 紫紅

寒 潮

平井 晩村

青 希 微

し ころう

内田 夕闇

薫園 選

碧梧桐 選

漢詩

雜

客待車夫(百世相)

文豪の成功観察

独醒語

編輯便り

「猿蓑集」講義

歌壇短評

八面鋒

前号評判

鶴林 選

掬汀 生

高須 梅溪

不動 尊

同人

人

第九編第五号(明治三六年五月) 目次

論

醜陋愚劣の博覧会

上野の二展覧会

小人崇拜論

魔鬼の言

甘言苦語(一)(二)(三)

黒岩周六と秋山定輔

画苑私語

桂月氏と智学

仙巖、牛骨、沙禅

伊藤 銀月

金子 薫園

草村 北星

余の大阪観

小学教育の陋俗なる所以

小説

沈鐘

若き人

運命の影

詩

行く春

暮春

花あやめ

目よせ

花がたみ

久濶

落紅

海藻草

二絃

暁の湖畔吟

朝の磯辺

野調

沈冥友吟

和歌

菊池 幽芳

I K 生

三嶋 霜川

香骨 生

菅野 雪城

馬場 孤蝶

原 柳涯

萩原みさを

平井 晩村

井上 春子

松原 至文

平井 晩村

中原 汐花

内田 夕闇

中野 紫紅

武石 皎月

菊池 暁汀

小野の花

薫園 選

俳句

漢詩

雑

文選職工(百世相)

西遊小記

阿雷児の成功に就いて

「愛・恋・情」を読む

「猿蓑集」講義

「膠山絹海帖」を評す

八面鋒

新刊論

前号評判

第九編第六号(明治三六年六月) 目次

論

醜陋愚劣の博覧会 新作小説四種

時代の犠牲

指教者と鼓吹者

甘言苦語(一)―(五)

評論二則

(一)黒岩涙香と天人論、(二)青柳有美の側面観

碧梧桐 選

鶴林 選

同 崑崙山客

高須 梅溪

登阪 北嶺

社中同人

田口 掬汀

伊藤 銀月

「文庫」記者を再駁す

薫園君及沙禅君へ

小学教員の俗陋なる所以

小説

生ける屍

通行止

はじけ豆

詩

志のぶの露

そぞろありき

新紅

血盟

夏の海浜

図書館

磯がたり

ひな歌

おしづ

静座

落日

春怨

かくての二人

花房 柳外

石井 柏亭

I K 生

窪田通治訳

川上 三槐

藤山 魚川

くれたけ

加鳥 汀月

吉植 愛剣

松原 至文

豊泉 陵雨

冽 水生

嵯峨千香子

井上はる子

公孫 樹

内田 夕闇

紅 雲

萩原 愛桜

三十六公

短歌

俳句

漢詩

雑

立ン坊(百世相)

「文選職工」を読みて

新声誌友大会の記

月くさ生活の理想

八面鋒

新刊評論

前号評判

編集局より

第十編第一号(明治三六年七月) 目次

論

新聞小説に就きて

努力主義

甘言苦語(一)(二)(三)

色慾と美術

「人情観的日本史」

柏亭氏に答ふ

薫園 選

碧梧桐 選

鶴林 選

三島 霜川

加賀 美生

藪 暎 会

不動尊、牛骨、仙巖

青柳 有美

伊藤 銀月

金子 薫園

吾人の文章観

今の小説家の描く女

小説

生ける屍

二つの影

十一時

長愁記

詩

磯より野より

死の淵

黒奴

友を待つ間

まぼろし

たそがれ

霞鐘

函嶺の一夕

薄光

狂蝶

鄙歌

巖頭の暮吟

恨

河野 紫雲

藪 睨 会

窪田通治 訳

豊泉 陵南

高橋 星涙

三宅 新生

磯守、野守

宇高 紫村

中根 紅雨

吉田 抱水

金子 薫園

嵯峨千花子

中島 葩香

香 骨 生

内田 夕闇

晚 村

山本 露滴

吾妻 芒村

青 葉

農夫

老鶯

蝉の歌

短歌

俳句

雑

鉄道駅員(百世相)

呵雷児の成功に就いて

十九世紀文学叢書に就いて

金色夜叉劇

合評

銀月君足下

「猿蓑集」講義

八面鋒

新刊紹介

価値の広告

第十編第二号(明治三六年八月) 目次

小説

密猟船

ランプ物語

蘇 筑

小野の花

春 影

薫園 選

碧梧桐 選

長谷川濤涯

高須 梅溪

一 読 者

沙 禅

崑 崙

青柳 有美

会 員

田口 掬汀

浅野 馮虚

海のゆふべ

水往生

美文

怒濤録

キヨウチャウ号

可憐

橡声延虫歌

雑文

蛇食ひ鱒

水の美

へブリュー文学に現はれたる水

凸凹録

水の雑感

甘言苦語

詩
水に就いて

夏がは

棹歌

夏花

富嶽十二観

水十句

草村 北星

登阪 北嶺

高須 梅溪

中村 春雨

佐藤 紅緑

斎藤 弔花

伊藤 銀月

大町 桂月

加嶋 汀月

崑崙 山客

奥村 梅皐

社中同人

誌友諸子

蒲原 有明

尾上 柴舟

金子 薫園

児玉 星人

碧梧桐、佐藤紅緑

志ら露

水

氣象万千楼

愛の泉

ながれ藻

新体詩

三色

青梅集

水韻

落梅

乱模様

春ゆく水

山の湖

和歌

俳句

漢詩

旅行談

旅行談

旅行は単行に限る

沙山失敗談

旅行談

北嶺

大沼 鶴林

大沼 鶴林

内田 夕闇

吉植 愛劍

蒲原有明選

夕闇

晚村

夕波

公孫樹

秀水

汐花

野の花

薫園選

碧梧桐選

鶴林選

巖本 善治

青柳 有美

金子 薫園

結城 素明

旅行談

大町 桂月

旅行談

高須 梅溪

旅行に就いて

田口 掬汀

旅

崑崙山客

すずみ台

六号生

備考(岡野)

「新声」は、明治二十九年七月十日、第一卷第一号を創刊、三十二年一月号より、第一編第一号を出し、此の第十編第二号までに、通卷九十一冊を發行したが、此本号限り、主宰発行者は佐藤橘香(儀助)の手を離れ、三十六年九月、森山吐紅に譲渡され、以下の号は正岡芸陽主幹で編集發行された。

「新声」 第二期 総目次

第十編第三号 (明治三十六年九月) 目次

論

我が国現代に於ける青年思想界の特徴

小説難

甘言苦語(一)―(四)

富豪の仮面

嵌石画

和歌管見

走り書

小説

ちぎれ雲

甲板物語

交譲葉

奴隸

誓

山骨、六根、牛骨、不動尊

K N 生

石島 古城

長谷川喬村

河野 紫雲

登阪 北嶺

中根 紅雨

香 骨 生

白柳 秀湖

藤山 魚川

詩

希望の光

瞿^{てい}麥衣

大沼小沼

松露記

初対面

杣木流し

夜

藪めぐり

無辺

曙光賦

夏雲

低吟

夢想吟

ささやき

反古塚

前田 夕暮

平井 晩村

浅野 笛秋

狂醉 野人

松原 至文

斎藤 美笑

内田 夕闇

吉田 抱水

雲 煙

春海 潮子

夷 希 微

芦谷 芦村

山本 露滴

国水 郎

平井 晩村

夜の歌

夏草

百合の風

深く冷く

俳句

雑

選挙運動(百世相)

阿雷児の成功

誕生日記

評前号歌壇

東京博覧会

八面鋒

新刊紹介

第十編第四号(明治三十六年十月) 目次

論

新日本文明の前途

社説

墨林画苑の荒廃

飲酒と色欲

十九世紀佛蘭西文学概評

信太郎

中原 汐花

小野の花

失名氏

碧梧桐選

掬汀生

高須 梅溪

竹の堂

寒生、骨生

加藤 一楓

小説

革財布

小慈善

コルシカ山の山賊(モオパッサン)

名残

明月

秋海棠

もゆる愛

美文

平泉の古都

あら浜

鏡池庵

幸谷の宮殿

秋海棠

秋風琴

はかなき人

詩

蟹のとまや(ハイネ)

人質(シルレル)

廢墟の吟

西行の像に

塚原 波柿園

中内 蝶二

柴田 流星

鈴木 秋子

原 柳水

佐藤 静海

無名氏

田山 花袋

三島 霜川

国府 犀東

高須 梅溪

中島 葩香

狂醉 野人

五十嵐松園

尾上 柴舟

柴田 守中

△ △ 生

藤井 佛川

送上村壳劍

短歌

石彫白鳩賦

黒蕊

苔花

秋韻

落紅

おもかげは

神の愛善は無限なり

和歌、俳句、漢詩

雜

ジョンソンとゲエテの半面

瑞靈園雜筆

阿雷兒の成功(四)

詩人と山びと

炉辺談片

陶庵隨筆の一頁

西園寺陶庵候と其事蹟

南欧の婦人

印度の蛇使ひ

甘言苦語

国府 犀東

尾上柴舟、阪井久良岐、藤井佛川

伊藤 紫泉

綿貫 仁門

川野 柴汀

山本 露滴

池本 奇粲

小野の花

逸名氏

各数十氏

正岡 芸陽

阪井久良岐

高須 梅溪

大塚 素江

△ △ 生

八面鋒

編輯便り

新刊紹介

備考(岡野)

挿絵、挿画を重視、本号にも、渡辺審也、満谷国四郎、北沢画伯、匿名氏の作がある。

第十編第五号(明治三六年十一月) 目次

論

與正岡芸陽書

與青柳有美

歴史的概観に於ける二十世紀の大勢

赤門派と早稲田派

自然主義

吊紅葉山人

話

おもかげ

ちぎれ雲

行末

暮の秋

文

輕井沢

登張 竹風

吉川 曾水

高須 梅溪

正岡 芸陽

藤井 佛川

一記者

三島 霜川

登阪 北嶺

高橋 星淚

中根 紅雨

中村 春雨

恋がたり

穀粒

君イちゃん

おいつき

貝あはせ

詩

土佐雲我莊十勝詩

静かにさめしたまひしひの

雲に与ふ

無題

人質(シルレル)

野花

新体詩

和歌

俳句

漢詩

雑

ラブ笑話

呵雷児の成功

失恋のモツアルト

蛮勇と劇台に上すに就いて

境野夢里人

齊木 仙醉

霞が関守

永富 松里

鳥城、
刀水、萩雨

野口 寧斎

蒲原 有明

児玉 花外

尾上 柴舟

柴田 守中

佛 川

蒲原有明選

尾上柴舟選

碧梧桐選

宮崎来城選

押川 春浪

梅 溪

大久保三三樓

柴田 流星

文壇風聞記

一是一非

編輯便り

一記者

八面鋒

新刊紹介

備考(岡野)

本号より竹風、論壇を担当。

第十編第六号(明治三六年十二月)目次

論

婦人論

三十六年史の回顧

答登張竹風書

十九世紀佛蘭西文学概評

曾水に答ふ

話

是耶非耶

別れ路

鮫ヶ淵

血雪達磨

△ △ 生
同 人

登張 竹風

千葉 江東

正岡 芸陽

小島 酒風

青柳 有美

西村 醉夢

中根 紅雨

前波 古帆

藤井 碧郎

文

湖の滸

跳る血潮

黒衣の露

熱情

安心の境

友へ兄へ

暁

詩

集清人十二句

独居山庵

思出

泉

新体詩

和歌

俳句

漢詩

婦人の研究に就て

王摩詰の詩

帝国茶番史一斑

夢の里人

三島 霜川

松本 春潮

斎田 紅雨

川村 深水

霞ヶ関守

山田 松琴

野口 寧斎

野 琴子

佛 川

北 嶺

有明 選

柴舟 選

碧梧桐 選

来城 選

伊藤 銀月

藤井 佛川

阪井久良岐

烏合会画集漫評

奇習画譜

新声講演会の記

一是一非

文壇風聞記

編輯便り

八面鋒

備考(岡野)

千葉江東(亀雄)入社、執筆。

第十一編第一号(明治三十七年一月一日発行) 目次

評論

文壇清潔法(其一)

反科学主義

川上貞奴論

劇壇革新策

奉坪内大先生書

月 且

作家十氏を論ず

小説

小旋風

森山吐虹

社中同人

登張 竹風

青柳 有美

花房 柳外

正岡 芸陽

扶陵 生

あなた蛇がこわくって

雪冤の刃

幸ある魂

加留多会

暗の世

美文

後園

秋思

あきはぎ

幸か不幸か

詩歌

新譜

イロとかけ

日の落穂

ああ月に泣く今宵

矢声

来不来

新体詩

和歌

俳句

漢詩

雜録

交友録

與阪井久良岐書

修養時代の馬場辰猪

一は一非

編輯だより

八面鋒

新刊紹介

(写真イロハ順)

花房柳外、登張竹風、徳田秋声、登阪北嶺、千葉江

東、渡辺審也、吉川曾水、田山花袋、永井荷風、尾

上柴舟、藤沢古雪、山岸荷葉、柳川春葉、正岡芸陽、

小島酒風、宮崎来城、森山吐虹、

大町 桂月

阪井久良岐

秋海 棠

社中同人

一記者

読者

第十一編第二号(明治三十七年一月十五日発行) 目次

論説

(社説) 文壇清潔法(二)

日下開山横綱常陸山

與黒岩涙香書

劇壇革新策

復真論

正岡 芸陽

登張 竹風

千葉 江東

花房 柳外

浜名 鍊脚

美術界

降魔剣

月 旦

作家十氏を論ず(中)

小説

あなた蛇がこわくって(下)

俘

雲の行方

花嫁

美文

靈鳥物語

夢明月

田園

姫桃の宮

春の小川

さだめ

燈影

詩 歌

半律十首

無題

新体詩

川上 三槐

(編輯同人)

扶 陵 生

伊藤 銀月

む さ し

永富 松里

十河 桂舟

片上 天絃

白 蘭

加藤 涙星

正富 汪洋

中根 紅雨

福井 笹舟

登阪 北嶺

野口 寧斎

尾上 柴舟

蒲原有明選

飄風嘆

夕陽の花野に

黎明

新春

新年賦

小町花紅

野の草姫

終焉賦

和歌、俳句、漢詩

雜 録

不祥語

イワン・ツルゲエネフ

早稲田大学と女子大学

編輯便り

文壇風聞記

新声評林

江湖(絵画 審也、鳳仙、古洞、三葉)

夷 希 微

芦谷 芦村

正富 汪洋

中原 汐花

中村 星湖

蝸 牛

董 の 露

釜石 涙星

来城、各選

田岡 嶺雲

昇 曙 夢

角田 浩剣

白眼 道人

第十一編第三号(明治三十七年二月十五日発行) 目次

論 說

文壇清潔法(三)

正岡 芸陽

社会と小説

客観主義の功過

操觚者

与ふる書

美術評壇

降魔剣

月 且

尺人寸人

高田実、本田庸一、姊崎嘲風、高橋五郎、矢野竜溪、

坪内逍遙、植村正久、佐々木信綱、井上哲次郎、徳

富蘇峰、

小説

跳る血潮(下)

霜夜

わかき僧

美文

霊鳥物語(二)

暮秋

新暮

心の雫

鴨狩り

黒岩 涙香

登張 竹風

同

千葉 江東

川上 三槐

編輯同人

編輯同人

姫桃の宮(二)

古城の夕

朝寒

忍ぶ日記

詩歌

落花流水

幸運と薄命

天の愛と地の愛

春水譜

巢立つ鶯

薔薇

和歌、俳句、漢詩

雑録

富士の観

咄々語

奇怪録

後桃源

レオパルデー

修養時代の辰猪

一号歌壇漫評

文壇風の便り

正富 汪洋

うきぐも

野 菊

紫 郎

藤井 佛川

野 琴子

平方 暁声

芦谷 芦村

柏木 靄月

川村 深水

柴舟、碧梧桐、来城選

既醉庵主

藤井 佛川

鹿目 凌雲

大倉 桃郎

小川 煙村

秋 海棠

黙 蓼生

編輯便

第三回文学講演会の記

八面鋒

新刊批評

第十一編第四号（明治三十七年三月十五日発行）目次

論説

與植村正久氏書

独身と結婚

與正岡芸陽書

與高須梅溪書

筆即ち劍

劇壇革新策

美術界

隆魔劍

月旦

廣津柳浪

小説

秋籬

若き妻

灰神楽

美文

靈鳥物語

病室

みだれ落葉

孤脚録

新春の一夜

湖畔の思

ふるさとの友へ

秋なやみ

晩秋

詩歌

獄裡の鏡

「モンブラン」の曙

天の愛地の愛

小樽を去る歌

色のおまたは

君

清宵

和歌、俳句、漢詩

雑録

レオパリ

片上天絃

松下岱川

芦谷芦村

牧苗子

申厚

三沢潤松

紫潮子

梅原薄月

煙月生

夷希微

浦瀬白雨沢

平方曉声

中原潮花

松石光村

由太郎

三木露風

柴舟、碧梧桐、来城各選

小川煙村

小川煙村

明治哀史編纂に就いて

一夫一婦は果して天則なりや「我觀

婦人」を評す

外人のみたる日本

挽瑯琊孫君異

那須原頭の詩的生活

文壇風の便り

編輯便り

新刊批評

奥村 梅臯

田岡 嶺雲

う み

野口 寧齋

三島 霜川

危 人

戦神

博士曰く

角闘士スバルタカス

花売

戦神

春の湖畔

一瞬時の瞑契

戦神

玄妙なる星

暮の色

明滅

海辺の夕暮

與徳富芦花書

戦神

人物研究

浮田和民

応召員

和歌、漢詩

九十九人

断々焉

梅二輪

橋本 紫星

松下 岱川

卯野木花城

桃花村人

中村 星湖

牛原 秋坡

大屋 天籟

松本 春潮

進藤 溪韻

芦谷 芦村

藤田 烟月

なにがし

飯田 水声

海坊主

登阪 北嶺

柴舟、米城選

佐藤 紅緑

凌 雲

磯 萍水

第十一編第五号 (明治三十七年四月十五日発行) 目次

時言

静かけに忙げ

水犀四章

劇壇革新策

虚偽の平和

急げ同胞よ

巖頭吟

転変

白銀集

夕の子

千葉 江東

野口 寧齋

花房 柳外

橘 星擘

紫 郎

十河 桂舟

三島 霜川

池本 奇燦

王 星

戦神

ルッチャード・キンプリング

吁齋藤緑雨

編輯便り

備考(岡野)

本号には、社告として、「芸陽、正岡猶一、右者本社と一切関係無之候 新声社」とあり。

第十一編第六号(明治三十七年六月五日発行) 目次

烏々集

野口 寧斎

論 説

我が徒の主張

社説

流行学

青柳 有美

戦争文学の功過

千葉 江東

佛国文豪シャトウブリヤンの性格

小島 酒風

亡者会議

劇壇革新策

花房 柳外

寸鉄 なにがし、くれがし、それがし、たれがし。

月 旦

姉崎嘲風

山 法 師

與江見水蔭書

小 説

応召員

散り敷く花

巢立

美 文

海のほとり

夕づつ

山 燒

夕づつ

Alone

泉の王

韻 文

新体詩

夕日のわかれ

紅扇

谷間の園

大我

驕児

田園詩人

うみくさ

山椒 大夫

登阪 北嶺

いさを

三島 霜川

牧 笛子

杉村 静陵

美土路醉香

島村 空花

ゆふだち

船勢 銀杏

蒲原有明選

清水 橘村

野 琴子

芦谷 芦村

正富春色殿

王 星

登阪 柳暗

中原 汐花

古鐘賦

めじろ

白梅集

和歌、俳句、漢詩

訪問録

幸田露伴氏、内田魯庵氏

雜録

素影録

新聞見立衣更

斎藤緑雨

杜鵑

凱歌の影

風聞記

備考(岡野)

三十七年七月至十二月は、本号を以て一時休刊。通号
第百一号。三十七年、この年五月、佐藤義亮(儀助、
号橘香)は、文学雑誌「新潮」を創刊、現存。

第十二編第一号(明治三十八年二月一日発行) 目次

復活の辞

論説

如何にして我が国民を刷新すべき

坪内 逍遙

田仲 湘水

中村 星湖

中原 汐花

柴舟、碧梧桐、来城選

伊藤 銀月

小田 卷

古川 夕陽

悲しみの極

桂月対劍南

都市生活の趣味

詩人と信仰

書籍と生命

緩調急調

小説、美文

春の村

荻声と水語

山上の孤屋

野川の夕べ

薄暮の虺蟻

まこと

韻文

人生行路の詩

造り花

しら藤

若葉かご

おもかげ

戦の曲

うもれ草

緒方 流水

草村 北星

船勢 銀杏

千葉 江東

斎藤 弔花

松原 至文

窪田 通治、三津木九臯訳

石丸 紫水

藤井 佛川

浅川すみ子

児玉 星人

夷 希 微

野 琴 子

茅 峰 生

津倉 春洋

北 辰

池本 奇瓌

和歌

俳句

漢詩

雜録

新春記

「相思怨」を讀む

高田と河合

君去りたもふことなけれ

正月物語

我がなやみ

文界風聞記

編輯便り

備考(岡野)

本号より發行所が隆文館となる。

第十二編第二号(明治三十八年三月一日發行) 目次

論説

文士処生論

高田ヶ原の虐殺を論ず

輓近詩壇の傾向

執と人生

現代文明の思潮

編輯局選

河東碧梧桐選

宮崎来城選

平尾 不孤

宮田 修

魔 王

無名氏

上田 董舟

亀岡 生

覆面武者

芸術家と芸術的良心

緩調急調

小説、美文

ゴム靴

春振衣

凋落

春のうれい

心安く任せよ

鳩

山上の孤屋

登音

月物語

韻文

新体詩

人生行路の詩

楽壇

宝冠

旅順口歌

わが生命

野菊に与ふ

うき草集

千葉 江東

徳田 秋声

児玉 花外

多胡 紫郎

藤本 花水

前田 梅城

青 蛙 訳

窪田 通治、三津木九臯訳

山本 露葉

悠々野夫

児玉花外選

児玉 星人

内海 信之

池本 奇瑯

田仲 湘水

神尾 江村

浦瀬 白雨

津倉 春洋

和歌

俳句

漢詩

雜錄

南清の美

高田と河合

過去日本の二大雄辯家

果して無用の用なるか

正月物語

恋のこころは

諸雑誌絵画合評

僕の迷語

讀者気焰欄……余の好む作家及

作物(一)……文界風聞記

編輯便り

時報

新刊紹介

尾上紫舟選

河東碧梧桐選

宮崎来城選

鳥居 龍蔵

魔 王

風 嶺

日下部秋風

上田 董舟

あ や め

有煙火薬連

賈 阿 弥

覆面武者

明治歴史を渴望す

宗教教育を論ず

大学派の文章家

幽界より

高田ケ原の虐殺を論ず(二)

東京とペテルスブルグ

緩調急調

小説、美文

誰が罪

田舎家の潜航艇

語らぬ星

佗一日の光

「チロン」の浄囚

春の夜

葦分小舟

故大西博士と親鸞

韻 文

新体詩

宵闇

梅檀林賦

春の袂

草村 北星

久連松水花

黒風 白雨

無 名 氏

西山 筑浜

東 海 男

高橋 鬼川

藤の舎主人

宇高 鷗波

青 花 影

浦瀬 白雨

興田野飽子

足立 朗々

緒方 流水

児玉花外選

沢村 胡夷

池本 奇瓌

吉井 泣琴

第十二編第三号 (明治三十八年四月一日発行) 目次

論 說

如何にして外国文学を研究すべき

上田 敏

春鳥語

野のなやみ

愛馬を葬むるの歌

紅血辞

月夜的美感

桃花賦

ちよと松の樹よ

低詩三章

和歌

俳句

雑録

聴感の美

村井弦齋に与ふるの書

番茶詩

老嬢に与ふるの書

伊太利に於けるゲート

文壇方角帳

讀者気焰欄……余の好む作家及作品

文壇風聞記

編輯便り

時報

門田 臥風

川野 芳郎

三好 聖泉

雨風 孤客

西山 鬼谷

鯨岡 秋韻

吐 峯 生

玉島 翠影

尾上紫舟選

河東碧梧桐選

久保田米倦

頓 珍 漢

魔 王

蛭原 紅雨

篠原 流泉

覆面武者

新刊紹介

(現代文学者の筆蹟) 幸田露伴、内田魯庵、徳田秋声、

平尾不孤各氏

第十二編第四号臨時増刊、陽春号(明治三十八年四月十日

発行) 目次

其一

白河女

戦争と文学

女役者

越前堀

日本画小観

模型

拓華黙語

かつてわれ

其二

トルストイの人生観

多く讀まるるの使命

牡丹鴉片

悔悟篇

董の歌

薄田 泣董

樋口 龍峽

松居 松葉

伊藤 銀月

坂井 犀水

窪田 空穂

廣津 柳浪

尾上 柴舟

桐生 悠々

緒方 流水

片上 天弦

田中 花浪

小栗かず女

耶蘇と人生の目的

人の愛

辞の戯れ

其 三

知、知、知

旅役者

ヨブ記に現はれたる神

陽春の囁

秋蝶

常世の光

関門海峡

西行に就いて

自由

其 四

孤憤吟

絵画と他の芸術

うき雲日記

現代の言論

花の精

家庭小説談義

光明日記

平尾 不孤

猪股 吟鶯

福本 日南

角田 浩々

田口 掬汀

斎藤 弔花

上田 董舟

冬 流

岩野 泡鳴

竹内 袖郎

梅沢 和軒

八九十 詠

児玉 花外

正宗 白鳥

服部 楠山

奥村 梅臯

天野 淡翠

山本 柳葉

森 しずか

文芸批判家の態度

尼

其 五

新体詩

小曲

花二章

素盞鳴尊

棲上吟

春の屋

鯉舟

雛

五年の夢

耶麻の秋

毒草の賦

日出賦

あだ波

旅行く人に

和歌

俳句

ああ妙子さん

其 六

橘 星華

奥野 夏宵

児玉花外選

佐藤 緑葉

内海 泡沫

奥原 碧雲

神尾 江村

藪 紫影

野 琴子

幽 咲

天花 生

宗形 董風

川路 柳虹

十河 桂舟

玉島 翠影

有本 芳水

尾上柴舟選

河東碧梧桐選

田 旭郎

不平家

無題録

猫柳

劇場放言

かっぱれと岩でこ

評壇の乱調子

ミランダ姫

編輯便り

時報

柳川 春葉

登張 竹風

阪井久良岐

河東碧梧桐

柿山 伏

長谷川天溪

梅城 生

現代文学者筆蹟（九）

東西新聞小説……緩調急調

花の雨

現代文明の思潮

おくさま

終焉の巻

文学界の人物（二） 巖谷小波を論ず

夕づく日

現代文学者筆蹟

我が詩的生活

酒と不平と文士と

新体詩

龍の頌

江戸川

春の山家

縫針

ふるさとの庭

春の小川

残紅集

花木影

狐のあとを追はざれな

薄田泣董氏

登阪 北嶺

橘 星擘

正富 汪洋

天野 淡翠

片山 緑児

露の 人

中内蝶二氏

西山 筑浜

かっぱ楼

児玉花外選

森川 葵村

有馬 濼月

市川 天白

沢村 胡夷

堀内 藤波

三好千香子

田中 花淚

三好 聖泉

吉井 泣琴

主張

第十二編第五号（明治三十八年五月一日発行） 目次

新聞と文学

傑作は果して作家の貧賤を要とする乎

時勢の影

野の春

花日記

姫碎米菜物語

未婚男女の理想

西征の夢

福岡の二新聞紙

千葉 江東

同 人

金子 筑水

高木 浪華

桑田 春風

松下 岱川

紅莓 野人

宮田 桃浪

覆面 武二

靈柩を送りて

花げんげ

浄き薫

焼山

宗教と芸術

現代文学者筆蹟

春宵怨

現代文学者特質調

伊太利に於けるゲーテ

霜どけ道

漢詩

春吹く風

地獄極楽

天然の風景と文章

所謂美術界

和歌

新東京人

現代文学者筆蹟

芸人氣焰録

俳句

當世文士崇拜競べ

神尾 江村

山本 暁空

幽 咲

川野 芳郎

加藤 玄智

角田浩々氏

安井 露月

乾坤 博士

篠原 流泉

岩本草の家

岡本随軒選

秋庭 露花

松田 北人

入沢 涼月

凡 々

尾上柴舟選

伊藤 銀月

江貝水蔭氏

岡 鬼太郎

河東碧梧桐選

あやめ若之助

三博士の文章月旦

讀者氣焰欄……余の好む作家及作物

編輯便り

新刊紹介

黒風白水楼主人

第十二編第六号（明治三十八年六月一日発行）目次

文学の威力

酒興

大学派の文章家（月旦）

幸田露伴氏に対する感想（一）

歌のふるさと

青春詩人

文壇よせ物語

文学者に対する余が希望

幽霊岩

緩調急調

涙ある人よ

現代文学者筆蹟

明治の女性

寂静の幻境

新体詩

佐々 醒雪

岩野 泡鳴

黒風白雨楼主人

関和 水際

芦谷 芦村

丸山 露花

こげ茶式部

藤田 白村

小坂 紫絃

清見 春波

川上眉山氏

磯 千鳥

川村 深水

児玉花外選

夢路
沼媛
流水の曲
白鳩の賦
静夜の思
桃の宴
野風呂
人形に与ふ
君と別れて
森のうた
草笛
大江山
孤拳吟
白蛇姫
山兔
白鳩
蜘蛛
ああ芳魂
天と地
スピノザの思想
源爺

内海 泡沫
佐藤 緑葉
茅峰 愛郎
森川 葵村
有馬 濼月
宗形 董風
永井 萍花
吉井 泣琴
やどり木
川路 柳虹
鈴木 耕園
藤木 紫蔭
猪股 吟鶯
藪 紫 影
川野 芳郎
神尾 江村
山口 碧波
なにがし
服部 楠山
斎木 仙醉
横沢 芦浪

現代文学者筆蹟
漢詩
文壇素破抜き
伊太利に於けるゲーテ（承前）
現代文学者筆蹟
和歌
文界の人物、廣津柳浪を論ず
哀史
春風吟
俳句
劇場放言
教授と記者、わせだと赤門
現代文学者筆蹟
讀者気焰欄
文人に対する感想（一）
余の好む作家及作物
編輯便り
時報
新刊紹介

黒川文淵氏
岡本随軒選
× × × 生
篠原 流泉
小島烏水氏
柴 舟 選
片山 緑児
日野 犀村
根本 月翠
碧梧桐選
河東碧梧桐
に せ 紫
登張竹風氏
幸田露伴氏

第十三編第一号（明治三十八年七月一日発行） 目次

俳句の将来

浄智寺

文界の人物山水十家(上)

剣花坊と久良岐

訣別の一夜

星の夜

故郷より満州より

芸人奇焰録

藤ごろも

文壇色分帳(上)

短歌

芸界の人物、竹本小佐

曰く録

逝きにしネル

こひのうま酒

訳詩二章

スピノザの思想(承前)

静かなるもの

いかにして文界に有名ならんか

作物の名目すり見たる作家

新体詩

内藤 鳴雪

草村 北星

片山 録児

鮎 まち

斎藤 弔花

藪 紫 影

福井 笹舟

岡 鬼太郎

有本 芳水

弱 法師

尾上柴舟選

清見 春波

一 す り

前田 梅城

伊藤 善魔

芦谷 芦村

斎木 仙醉

栗野由多可

成功先生述

狸 之 助

児玉花外選

かりがね

夕道遥

花の精

光と暗

楠の木蔭

流星

墓畔の董

はなれ雲

暮潮

若紫

春宵の曲

若き尼

春姫は旅立ちましぬ

磯の汐

春愁賦

露時雨(一)

古日記

芳郎吟

檻車の人

川柳富士見酒

漢詩

内海 泡沫

佐藤 緑葉

渡部 虹衣

茅野 愛郎

森川 葵村

川路 柳虹

吉井 泣琴

あらら木

大貫縹緲子

津倉 春洋

藪 紫 影

山田 碧波

由井 一矢

榎原 竺風

神尾 江村

柳川 春葉

紫 子

川野 芳郎

千葉 江東

久 良 岐

岡本随軒選

劇場放言

河東碧梧桐

文壇ものは？……

文学者肖像
個人主義論

桐生 悠々

ああ不孤

児玉 花外

諸小説家の文章（月旦）

黒風白雨楼主人

「琵琶歌」を読む

登阪 北嶺

（月旦）苦学小説家、作家肖像

ドンヤ珍談

そと 魔

緑蔭語

芦村 漁郎

俳句

碧梧桐選

文壇下馬評

番茶 郎

諸小説家の文章（月旦）

黒風白雨楼主人

美なるものに与ふ

蛇原 紅莓

現代画家のお噂

式部くれない

新体詩

児玉花外選

文壇素破抜き

× × 生

遺悶

内海 泡沫

讀者気焰欄

微想集

永井 萍花

文人に対する感想

村井弦斎氏

何の響き

池本 奇燦

編輯便り

楠の木蔭

森川 葵村

時報

幻の苑

藪紫 影

新刊紹介

輓歌
さすらひ人

佐藤 緑葉

（泰西文豪肖像 シルレル。アンデルセン。サーバン

テス。テニスン。ホーソーン。トルストイ。ペトラ

もろば草

門田 臥風

ルカ。）

由良の浜

神尾 江村

海浜吟

藤本 紫蔭

春の夜

猪股 吟鶯

霊鳩夢に入る

津倉 春洋

森の夢

鶴田 白矢

第十三編第二号（明治三十八年八月一日発行） 目次

孤寂

蒲原 有明

波のしぶき

草村 北星

病 葉

漂泊
 逍遙の夕
 鴨脚樹
 當座帳
 文壇如是我聞
 夏草
 短歌
 僕の駄法螺
 文学者肖像
 大新聞見立調査委員
 二つの鐘
 菓子屋の扉
 緩調急調
 大不平
 文士持病
 文壇色分帳(下)
 そそろ言
 雲影
 烏水の「日本山水論」
 文学者肖像
 俳句

有馬 濼月
 川村 深水
 三島 霜川
 有毀 誉堂
 覆面武者
 須藤 寒泉
 尾上柴舟選
 大町 桂月
 樋口 竜峽
 楠 山
 悠 子
 河東碧梧桐
 弱法師
 沼田 笠峰
 登阪 北嶺
 千葉 江東
 碧梧桐選

桂月曰く「草枕」を讀む
 森と海
 漢詩
 文界の人物……山水十家(下)
 文学者肖像
 書簡
 讀者気焰欄
 文人に対する感想(三)
 時報
 新刊紹介
 第十三編第三号(明治三十八年九月一日発行) 目次
 子持曲玉
 山田長政
 文学と時代の調和
 自然の福音
 最後の書簡
 大不平
 新聞と文士(一)(二) 懸集帳
 ふるさと
 新体詩

楚歌生
 前波 古帆
 岡本随軒選
 片山 緑児
 茅原 華山
 江見 水蔭
 高安 月郊
 千葉 江東
 田中 紫江
 河東碧梧桐
 有毀 誉堂
 清見 春波
 児玉花外選

月姫
狂夫吟
夏野原
火事の夜の恋
夏蜜柑
立秋
夏の姫宮
花壇の賦
村をどり
遠思
江戸むらさき
暁市に立ちて
花と花賣
画界漫言
女子大学長に
根なし水
帰郷
里の夕
和歌
車前草社詩草
手結の浦

有本 芳水
内海 泡沫
藪 紫影
正富 汪洋
森川 葵村
門田 臥風
飯田野孤董
丸田 牧洋
茅峰 愛郎
藤 波
渡辺 虹衣
棲霞 山樵
鈴木 耕園
坂井 犀水
叢 紫 劍
登阪 北嶺
佛 川
前波 古帆
柴 舟 選
前田夕暮等
中村 月霞

芝居の乱世
姉と妹
白鵠
番茶郎語
聞き書
俳句
愛の花束
文学者肖像
廣津柳浪氏、泉鏡花氏、江見水蔭氏、高田半峰氏、
巖谷小波氏、武内桂風氏、故尾崎紅葉氏、故大橋
乙羽氏。
夏十句
芸人氣焰録
こぼれ種
緩調急調
女菅笠
大根評論
憧憬
文壇如是我聞
閨秀作家の文章（月旦）
浮世草紙

伊原青々園
鶴子、婁子
児玉 花外
番 茶 郎
碧梧桐選
川路 柳虹
大谷 繞石
岡 鬼太郎
金沢の人
河井 明華
太郎、次郎
須藤 寒泉
覆面武者
黒風白雨楼
うまのかみ

讀者気焔欄
編輯便り

文人に対する感想(四)

新刊紹介

第十三編第四号(明治三十八年十月一日発行) 目次

戦は終れり

小さき庭

江見水蔭氏より

日本画家の渡米を促す

夕流父子

美女梅

三つ巴

学校者流に不学論を呈す

新体詩

小宰相

龍女の歌

旅にして

永久の命

あま蛙

羊かひ

緑蔭

咒咀の蔭身

小き団欒

靈石

七夕

胸なる響

森の古沼

すずろうた

野の曙

島の火

おち穂

緩調急調

露時雨

和歌

車前草社詩草

夏廂

お銀

俳句

水の啓示

さまよひ

百合姫

川野 芳郎

神尾 江村

伊藤 善応

佐々木鉄騎

中尾 紫川

三木 露風

朝野 紫舟

津倉 春洋

藤木 紫蔭

伊藤 銀月

編輯同人

柳川 春葉

尾上柴舟選

正富 汪洋

渡部 紅衣

河東碧梧桐選

内ヶ崎愛天

し え い

藤山 魚川

清閑雜筆

故国出雲

思ひ出

漢詩

有耶無耶

銀月氏より

現代の批評家（文界の人物）

讀者気焰欄

文人に対する感想（五）

新刊紹介

第十三編第五号 臨時増刊白露号（明治三十八年十月二十

日発行）目次

題辞 高塔

根岸の秋

芸術の使命

楽屋風呂

落日

一筆啓上

うらぶれの記

めぐりあひ

楫斐紫楼

中村 月霞

長岡 白羊

岡本随軒選

乃帆流訳

片山 緑児

埋れ木

御三回忌

時代と文学

雅号と花

サーサー集

新体詩

秋のあゆみ

隴畝吟

幻想

あこがれ

漁村

霊の歌

大塔宮

別離の夕

森の夜

宵の灯

小島の歌

加茂川のほとりにて

老農夫

わづらひ

古沼

須藤 寒泉

中村 柳涯

西山 鬼谷

浜辺の里人

児玉花外選

沢村 胡夷

内海 泡沫

永井 萍花

森川 葵村

門田 臥風

川路 柳虹

藪 日明

伊藤 源宗

鶴田 白矢

三木 紫燭

渡辺 春浦

春洋 滯人

高瀬 淡嶺

神尾 江村

渡辺 紅衣

小悲愁歌

小曲

詩筆を焚く歌

森の歌

歌舞伎座見物

新聞劇評家

帰省

学生風紀問題の責任者

夕霧

伯母嶺の頂上

白馬非馬

和歌

車前草社詩稿

雁影

旅人の歌へる

天象と海洋

鏡花と美人

夢

木がらし

秋の人の世

追善興業見物記

猪股 吟鶯

塚本 黒潮

山口 白嶺

佐々木信綱

雙角 魔王

岡田 溪村

藪 紫剣

登阪 北嶺

上田 董舟

田 舍 人

尾上柴舟選

北 嶺

山本 露葉

高須 梅溪

あ や め

三津木春影

北浦 夕村

落合 孤峯

猫言鼠語

俳句

水白き泉

絵はがき

山上の一夜

瑠璃面吟

唐船噺

雅号調べ

漢詩

予の好む人物

緩調急調

秋の句

ミニエツト

英国新聞と我が新聞

一つの快心事日露の曲

雨の松島

田舎道

柳村と漱石

新聞と主筆と原稿

讀者気焔欄

編輯便り

天馬 桃太

河東碧梧桐選

児玉市隠

関 葩水

三島 霜川

山本 露江

土屋 蝶露

大森かつらの助

岡本随軒選

斎藤 弔花

碧 梧桐

央華生訳

千葉 江東

河井 咀華

富永 沙鷗

近藤 塞坡

紅 児

こがね磨

第十三編第六号(明治三十八年十一月一日発行) 目次

ヘンリー・アーヴィング

江東生

霊泉

三島 霜川

猫言鼠語

天馬 桃太

夏目漱石氏曰

舞子の浜

浮田和民氏曰

浮草

相火供養

登阪 北嶺

破壊論者

石川泡沫庵

醜面の美

中村 月霰

一言二言

蛇原 紅莓

文壇野次馬論

落合 孤峯

ああ晩秋

花弟 生

白蓮

大町桂月、
柳川春葉、

文士の玄関と書齋

曙染

内田魯庵、泉鏡花、久保天随

小夜ちゃん

恋失ひて

落葉箒

截蘭溪

俺が先生

ウツフン録

野葡萄の蔭

フラウ・メツテ

幸徳秋水は黒暗々

新体詩

緩調急調

龍頭山月夜賦

高浜 天我

あわれみ

白毫光

葉守燧

噫、風雪の児

舞子の浜

浮草

つゆ草

深林に立ちて

梶まくら

抱きぬ古甕

おきみ

別宴

闇の野に立ちて

小夜ちゃん

曙染

俺が先生

野葡萄の蔭

幸徳秋水は黒暗々

緩調急調

歌

内海 泡沫

池本 奇燦

藤本 紫蔭

藪 白明

田中 静湖

門田 臥風

津倉 春洋

西井 霞川

董の露、露の風

川路 柳虹

吉井 泣琴

佐藤 緑葉

相馬 棲霞

夢野 白草

小野 北辰

大石 霧山

ひろし

川路 柳虹

真部 勝水

編輯同人
尾上柴舟選

小感録

唐船噺(下)

俳句

作家の不平

詩人歌人

しら雲

都会研究に就いて

讀者気焰欄

文士に対する感想

新刊紹介

編輯局より

第十三編第七号(明治三十八年十二月一日発行) 目次

正直もの

象徴を論ず

日本画と空間

傍若無人

破船

文士肖像

新体文章評釈

萩の宿

中里 介山

土屋 蝶露

河東碧梧桐選

草村 北星

銀寒 水人

咀華 瘦客

伊藤 銀月

靈泉

朦朧言

蛇尾録

なまけもの

てんやわんや

詩人文人

新体詩

星のちぎり

田園にかくれゐて

雷鳥

野のあさ

恋の家島

武蔵野に立ちて

良人まち

楽堂

麦搗歌

哀調吟

遠流の蛙

文明的恋愛を排す

駐在巡查

文士肖像

三島 霜川

組の小頭

天馬 桃太

宇高 鷗波

大森かつらの助

七曜 星

森川 葵村

内海 泡沫

鶴田 白矢

根本 月翠

三木 露風

有本 芳水

川野 芳郎

渡部 虹衣

猪股 吟鶯

菊の園守

長岡 白洋

登阪 北嶺

早川 北汀

でんでん太鼓

小数類題

緩調急調

和歌

車前草社詩稿

人の世

花じさり

野の宮

抗議申込

兄弟生活

「日本山水論」を読む

漢詩

草村北星と田口掬汀

俳句

露子夫人よ

讀者気焰欄

文士に対する感想

編輯局より

予告

備考(岡野)

三十八年度は、評論に天溪、天絃、江東、竜峽。詩に

泣菫、有明、泡鳴、花外。小説に秋声らが活躍した。

第十四編第一号(明治三十九年一月一日発行) 目次

論文

小説中の人物

長鞭馬腹

新聞紙第三面論

小説

窟の結婚

伏蛇

命の親

海濤王

ああわが妻

われは雲

海外文壇

江生 感応

酷婦伝

ある夜

夕べの比叡

日本焼餅物語

筑紫琴

桑木 嚴翼

角田 浩々

桐生 悠々

江見 水蔭

小栗 風葉

大塚楠緒子

三島 霜川

廣津 柳浪

斎藤 弔花

児玉 花外

大島 蘭秀

生田 春月

松室 美鳥

伊藤 銀月

天野 淡翠

暁の巻
近眼鏡

新体詩

断鴻哀歌

リチャード一世

秋思二首

古刹の畔に立ちて

森の影

魂の住家

姉妹

休火山歌

磯の夕暮

島千鳥

月見草

夜の声

秋恨賦

京女

夜雨を懐ふ

初日の曲

流れ星

低詩二章

須藤 寒泉

芦 仙人

児玉花外選

内海 泡沫

藪 白明

津倉 春洋

森川 葵村

渡部 紅衣

神尾 江村

茅峯 愛郎

相馬 棲霞

十河 桂舟

小野 北辰

藤本 紫蔭

紫 津 夫

間島 琴山

吉井 泣琴

猪股 吟鶯

川野 芳郎

伯 耆 男

藤原 桂川

清韻

花蔭

蟋蟀よ

史の一面

国木田独歩に与ふ（公開状）

柳川春葉様に（公開状）

花郷曲

緩調急調

創作談義

生醉漫語

島崎藤村さんに（公開状）

春夏秋冬

和歌

車前草社詩稿

あみ笠

高等師範と私立学校

近眼鏡（二）

逝く年

短詩数首

俳句

野の石

水戸の里人

紫浪 濔人

高瀬 蔦紅

奥村 梅臯

金衣 公子

よし 子

久保 天随

新声同人

田口 掬汀

弱 法師

信州男児

酒匂 景紅

尾上柴舟選

一 吐 録

こだま紫津夫

亜城 逸帆

吾土芦仙人

楠 谷

河東碧梧桐選

楫斐 紫楼

雲雀

人のつとめ

海

忍ぶ小草

奈何か自覚すべき

蒲原有明氏に

幸田露伴大人に（公開状）

桜吹雪

年頭駄辯

桑田 春風

神代 蓮月

岱川 迂人

藪 紫影

千葉 江東

河井 咀華

天馬 桃太

福地桜痴

文壇諸家の御見舞物

雛桔梗

処方箋

初刷雑誌の一二

新体詩

飛魂飄揚

醉歌

鍼の歌

鶯塚の歌

夏の花

白萩

花吹雪

青山黒水楼

中村 月霰

落合 孤峰

グラム先生

児玉花外選

内海 泡沫

汪 洋

森川 葵村

有本 芳水

渡部 紅衣

津倉 春洋

藤原 桂男

第十四編第二号（明治三十九年二月一日発行）目次

マーク・トーエンの誕生日

早稲田派の蛇将来

文士肖像 柏蔭、泣菫、弔花

海浜の古郷

此の夜彼の夜

たけくらべ

禅林の歌人

ミルトンの雄篇

夜がたり

千葉 江東

原 詠二

川路 柳虹

紫 津 夫

あみ 笠

佐々木信綱

浦瀬 白雨

生田 春月

第十四編第三号（明治三十九年三月一日発行）目次

陣くして新しき問題

我が見たる有明及其の詩

頗るノン記

露時雨

立像観音

怒濤庵を訪ふ

時 評 子

芦谷 芦村

桃 太 郎

柳川 春葉

前波 古帆

木 葉 生

人

社会学校

忍ぶの日記

お豊

日本風をなしたる西洋作家

新体詩

絶影島秋晴賦

擁壺吟

おもかげ

街のあけ

感謝

夕陽を望みて

魂のいたみ

ある夜の想

鄙路

暁の鐘

潮音

煤抜

海の黙想

追懐

断頭室

尾上 柴舟

桐生 悠々

葉流 子

飯田 蛇骨

X Y Z

児玉花外選

高浜 天我

内海 泡沫

三木 露風

門田 臥風

三好 聖泉

白蛇 幻骨

川路 柳虹

猪股 吟鶯

吉井 朽琴

門脇 蒼仙

高橋 美一

千くま守

川野 芳郎

伊藤 善魔

遠田 羽風

珊瑚の島

いもうとよ

舟の国

大劇場の建設を論ず

こぼれ草

緩調急調

芸人伝

三遊亭小遊三

南江北川

吾が影

賣のこり

頬杖ながら

和歌

船中の三仙

車前草社詩稿

俳句

文士内閣の未来

咆哮語

三宅雪嶺(月旦)

讀者気焔欄

新刊紹介

一色黒百合

赤木 芝二

山口 白嶺

長田 秋濤

てんでん子

編輯同人

田中 霜柳

三遊亭福遊三

暁川 野人

松室 美鳥

あみ笠

百合の園守

尾上柴舟選

松居 松葉、鈴木秋風訳

同社同人

河東碧梧桐選

雲来坊

樋口 麗陽

斬馬 劍禅

山岳会設立につき

小島 烏水

和歌

尾上柴舟選

第十四編第四号 (明治三十九年四月一日発行) 目次

墓の文士

塚原波柿園

信仰の危機

時評 子

歴史小説諸見

X Y Z

復活者の教訓

姫の寵児に

須藤 塞泉

女子と文学

瑞典の沙翁

百合の園守

自覚せよ両国民

吹雪ぐもり

児玉花外選

現今の宗教的傾向

雪ふく風

内海 泡沫

大家談屑

井上哲次郎
浪裡 白跳

新体詩

芦 華

活人剣殺人剣

松青竹緑

董月 一露

新曲赫映姫と能楽との関係

山田 桂華

悲恋歌

津倉 春洋

雛日記

平井 晩村

兵曹の曲

藤井 白鐘

清宵

福田 寧雄

わが恋

川戸 溪韻

文士と本名

大森かつらの助

やらむ筑紫へ

児玉 市隠

緑

尾上 柴舟

姉の子を葬むる歌

武石 天郊

緩調急調

編輯局同人

里の夢 在来

福地 董水

雨の雫

土屋 朝露

追憶 在来

寺田 紅梅

文士の親友

浦瀬 白雨

憧憬

佐野 風絃

ミルトンの二雄篇

美 知代

浅緑三枝

関 夕巷

雪

天馬 桃太

黄昏の思

こひつじ

麗陽に答ふ

濁頌

碧 瑠 璃

船中の三仙

松居 松葉、鈴木秋風訳

俳句

河東碧梧桐選

うつつの夢

日野 皐村

車前草社詩稿

同社同人

演壇の大町桂月

春風駘蕩生

牛門の四秀才(月旦)

黒山白水楼

車前草社小集の記

社中の一人

讀者気焰録

時報

編輯局より

誌友会に就いて

第十四編第五号(明治三十九年五月一日発行) 目次

技巧重んずべし

時 評 子

所謂家庭小説

作家と説教

法律家と医者

卜居

久保 天随

南欧の思ひ出

塩釜 白潮

氣の多い詩人

傑作は何時出来るか

殺人剣活人剣

胸を抱きて

儂き宵

文壇をかし記

英国の月桂詩人

磯の想ひ

船がたり

緩調急調

太極渾愛論詩

船中の三仙

松居 松葉、鈴木秋風訳

里ごころ

和歌

かがやく朝

時

放浪

新体詩

恋君に

軍馬の屍

かつらの助

紫 津 夫

簾 白明

児玉市隠

重田葉流子

河村 綾子

新声同人

芦谷 芦村

有本 芳水

尾上柴舟選

平尾 星花

徳田 秋声

豊泉 紅東

児玉花外選

正富 汪洋

内海 泡沫

都を恋ふる歌

天王寺墓畔に立ちて

憧憬

暁暗の幻

野送

遠思

高樓

内藤湖南翁

捨兒行

みだれ心

めくら蛇

木下尚江に与ふ

俳句

俳句と宗教

車前草社詩稿

教壇の文士

詩人花外に復す

芸人伝

牛門の四秀才(月旦)

讀者気焔欄

新刊紹介

高浜 天我

森川 葵村

猪股 吟鶯

白蛇 幻骨

美樹 燦子

藤本 紫蔭

児玉 市隱

花南 俠禅

酒匂 景紅

十河 桂風

無礼講社中

天馬 桃太

河東碧梧桐選

内藤 鳴雪

同社同人

白雲辺々郎

銀月生

田中 霜柳

黒山白水楼

編輯局より

附 録

花見寺 其の前夜

其の午前

其の午後

誌友会雑感

伊藤銀月、児玉花外、若山牧水、三木露風、桃の

里人、猪股吟鶯、有本芳水、須藤寒泉、正富汪洋

等。

会の前後

花見寺雑詠

第十四編第六号(明治三十九年六月一日発行) 目次

桃花扇伝奇

南欧の思出

巨塔

不孤の死顔

人生の一大事実

最近の作家批評家(月旦)

山時鳥

劇界私言

前田 夕暮

楚歌 庵

棹歌 楼

咀華生

前田夕暮等

久保 天随

塩釜 白潮

尾上 柴舟

児玉 花外

清見 陸郎

街頭の人

太郎冠者

藤沢浅次郎

浮世
 ゴニエプル
 京を去りて
 復活
 毛虫芋虫
 よんどころなし
 新体詩
 まぼろし
 葉かげ
 夏の日の夢
 花外兄に
 哀歌
 獄窓の人の歌へる
 森の木枯
 おもひで
 磯の想
 春の灯
 はかな恋
 囚車
 恋の賦
 梅花一輪

桂浦 狂生
 英 蟬花
 みどり
 土屋 朝露
 救世生
 二指輪
 児玉花外選
 白蛇 幻骨
 正富 汪洋
 渡部 紅衣
 高浜 天我
 猪股 吟鶯
 中野 金鳥
 芦 華
 津倉 春洋
 十河 桂舟
 重田 春子
 相馬 捷露
 中島 越溪
 法月 紫星
 安川 嶺月

寒潮百里
 春日記
 放浪
 思想界の一転機
 月輪物語
 青葉若葉
 和歌
 捨小舟
 「伶人」を読む
 車前草社詩稿
 長女
 漢詩
 緩調急調
 雑誌管見
 時評
 文芸協会よ
 教壇の文士
 讀者気焰欄
 新刊紹介
 編輯局より

奥村 紫光
 野村 紫光
 豊泉 紅東
 近角 常観
 伊藤 政女
 重田 春子
 尾上柴舟選
 紅蹊女史
 金衣 公子
 同社同人
 岡田美知代
 岡本随軒選
 新声同人
 大森かつらの助
 時評子
 白雲迢々郎

第十五編第一号（明治三十九年七月一日発行）目次

人生の快事

伊藤 銀月

旅のいろいろ（一）

柳川 春葉

最近の作家批評家

街頭の人

青葉の嘆き

紫津 夫

滾々録

清泉 子

藤沢駅弔大窪詩佛墓

久保 天随

旅のいろいろ（二）

巖谷 小波

ユーゴー伝の一節

島田 鉄洲

遥かに文士様のお顔を想ふ

よし 子

新体詩

詩酒自適

正富 汪洋

花の魂

佐野 風絃

観呼

白蛇 幻骨

湖畔の瞑想

猪股 吟鶯

反古を焚くとて

朝 閑 生

春愁小歌

芦 華

いやよ

重田 春子

自然のささやき

阿部 宿木

暁の古寺

関 夕 花

御嶽山を望むの歌

長岡 白洋

暮想

舞姫

旅のいろいろ（三）

青すだれ

恋尼

恐るべき敵

旅のいろいろ（四）

和歌

平俗か超俗か（時評）

遊学

緩調急調

俳句

新体詩について

車前草社詩稿

国自慢

たそがれ

ふた道 女波男波

まひる人

八頭蛇

斧の人 空中楼閣

三ツ井愁窓

上月 冬涙

尾上 柴舟

伊藤 政女

飯田 蛇骨

稲 南 生

川上 眉山

尾上柴舟選

時 評 子

寒 泉 生

新声同人

河東碧梧桐選

佐々 醒雪

同社同人

古 鐘

備 前 女

伯 耆 男

きよし

酒匂 景紅

旅のいろいろ (五)

江見 水蔭

旅行好きの文士

古代更紗

渡部 紅衣

讀者気焰欄

詩魔奏楽

正富 汪洋

新刊紹介

故郷の春

内海 泡沫

投稿募集

妖婆笑

佐藤 緑葉

第十五編第二号 (明治三十九年八月一日発行) 目次

煩悶と小説 (時評)

時評 子

天橋井

児玉 市隠

寫真と理想

さっさ寄らんせ

藤木 紫蔭

イブセンの教訓

薔薇を廻りて

猪股 吟鶯

詩人同盟の首途

夢の湖

横田 双蝶

近時小説界の不振

悲歌

佐野 風絃

文芸の權威を立せよ

郭公の賦

常深 千里

旅行の今昔

花賣

松本 颯外

南欧の思ひ出

玉輝花

重田 春子

文士狂言 高利貸征伐

神苑

寺田 紅梅

夏十句

玉芙蓉

福地 董水

九十九里ヶ浜

石女

川野 芳郎

輕業師

雨の朝

相馬 棲霞

清遊記

春夜

井岡 彳袖

新体詩

児玉花外選

磯の春

夏野 恵子

蝶の夢ならで

石榴 石榴花

竹

緩調急調

緩急車

悟

新声歌壇

うたかた

島崎藤村（訪問）

森田思軒の生地

俳句

虫が峰山下の友へ

車前草社詩稿

漢詩

拂榻録

殺人劍活人劍

讀者気焰欄

新刊紹介

編輯局より

橋本 月明

陀阿士山むら

尾上 柴舟

新声同人

白 水

二 指 輪

酒匂 景紅

それがし

岡本 照南

小沢碧童選

十河 桂舟

同社同人

岡本随軒選

咀 華 生

かつらの助

夏の歌

川柳富士見酒

青年子女と書籍

〇〇〇れたる文学

米国の雄心詩人ゼームス、ルセル、ローエル

五月雨

風流博士列伝□〇楼声楽の研究

灌艶物語

杜の朝

女男川

下賀茂の森

ささやき

男ッくひ伝

新体詩

白衣長劍人

心と海

和が呪咀

風流のえにし

春の詩巻より

恋環としつぐ

凌霄花

蒲原 有明

久良 岐

時 評子

雲 突 坊

児玉 市隠

清見 春波

東儀 鉄笛

白石 微光

鱸 呼 牛

むらさき

美 知 代

松室 美鳥

伊藤 政女

児玉花外選

正富 汪洋

渡辺 虹衣

和田 磯風

内海 泡沫

秩父根びと

としつぐ

美樹 燦紫

悲歌
 疾風
 君なり
 楼の宴
 夢
 終の一日
 夕べの鐘
 常若かへり
 夕ぐれ
 曙
 ほととぎす
 霊宿
 水の流れ
 彼の佞者を追へ
 夏の絵巻
 夜討曾我
 緩調急調
 短歌
 文芸と風教問題
 不二山と琵琶湖
 恋の透影

尾山草の家
 阿部 宿木
 重田 春子
 加藤 鷺住
 武石 天郊
 漁り 火
 暁川 漁人
 佐藤 秋頓
 上月 冬渥
 春 洋
 和田 夕瀬
 苗加 白光
 小栗 風葉
 紫 峯
 野村 紫光
 春窓 女史
 尾上 柴舟
 金子 筑水
 吉村 桂浦
 沢田 霞溪

新声歌壇
 閑居九月
 鬼の舌唇
 帰省記
 俳句
 鈴虫の記
 漢詩
 黒闇日本史を讀む
 富木の海
 車前草社詩稿
 双手の声
 八面鋒
 新刊紹介
 第十五編第四号 (明治三十九年十月一日発行) 目次
 Japan's modern novelists
 を讀む

斎藤 弔花
 奥原 碧雲
 飯田 蛇骨
 小沢碧童選
 うたかた
 岡本随軒選
 中里 介山
 十河 桂舟
 禅坊生
 野狐禅
 白星子
 塩釜 白潮

文学拾遺物語
 興津の曙色
 雨
 関西劇壇疊棧敷
 夢の謎
 有明氏近来詩調
 文壇の珍事
 九月五日の記
 虫の声
 百里路
 目白の友
 イブセンと雪舟
 雑感
 文芸私観
 菊池幽芳と関西文壇
 月下の森
 新体詩
 空罐
 詩酒高歌 春月紫燭殿
 待つ宵
 十二単衣

西山 筑浜
 秋野 月明
 徳田 秋声
 藤樹 隠士
 伊藤 銀月
 福来 生
 前田 夕暮
 杜村 生
 長谷川天溪
 斎木 仙醉
 正富 汪洋
 吾妻 隼人
 美鳥 子
 児玉花外選
 内海 泡沫
 夜船 芦花
 玉島 御影
 津倉 春洋

死の原子
 妖闇
 警鐘
 曙の歌
 似たる日
 屈み魂
 朽板
 鄙唄
 闇中の影
 坑夫の歌
 入日
 北風
 愛の最後の別れ
 占夢
 わかれ
 夜盗の歌
 追はれ羊
 永洋の夢
 琴の音
 夏の夜の倅り
 望嶽の賦

白蛇 幻骨
 佐藤 緑葉
 猪股 吟鶯
 佐野 風絃
 吉井 朽琴
 作山 紫山
 生田伯耆男
 奥瀬 霞翠
 吉田さざんか
 吉岡 夕舟
 三井 秋窓
 哀歌 冬涙
 榎本 秋村
 大村 流外
 青山 朗濤
 高橋 美一
 立石 露
 白立 微光
 園田 滸影
 栗田 村雨
 白鳥 省吾

われは囚人

松風

岸辺の紅葉

将来の文体及び日本語

微笑の記

天眞の恋に帰れ

深海かれて

鍬鍛冶

二足夢獣

新設大劇場の構造に就いて

緩調急調

歴史と小説

露の月

新声歌壇

奈良朝文芸の側面観

崇き愛

桃花扇伝奇に現はれたる人物

乗合船にて

論議二則

雨の古渡

柿の実

根本 月翠

松山 秋雨

佐治 霞外

巖谷 小波

佐藤 弔董

紫 峰 子

朴 蓼 明

三島 霜川

西尾血竜剣

土肥 春曙

新声同人

塚原 渋柿

尾上 柴舟

平野 流香

智 子

奥村 梅阜

ひろ じ

斎藤 弔花

江見 水蔭

伊藤 政子

俳句

理想画に就いて

女の笑

漢詩

叫び

車前草社詠草

新刊紹介

文壇近事の問題

第十五編第五号(明治三十九年十一月一日発行) 目次

時評

根本を忘れざれ 実力の時代

一能あれ

文学者志望の青年に告ぐ

根本通明先生の片影

南欧の思ひ出(完)

自然を寫す文章(一)夏目漱石、(二)国木田独歩

燈台守の歌

鳥

文壇の物故名士(一)白葉生若松賤子女史

紅葉と团州の墓

小沢碧童選

中村 不折

ひろ 子

岡本随軒選

苗加 白光

破天 公子

時評 子

実力の時代

徳富 蘇峰

高瀬武次郎

塩釜 白潮

天野 淡翠

尾上 柴舟

外島ふかし

金毒論

似而非文士の末路

智巧の徒に俟たず

何の為めの懸賞ぞや

先輩の名に譲る勿れ

午後主義最も可也

十年の後を想ふべし

野口米次郎氏の亜米利加帰朝

新体詩

ものの音

心眼

花すすき

花つぼみ

十二草

わかれ

海の啓示

振分髪

磯辺の詩人

靡き藻

玉鈴虫

古杉

紫峰子

汽車の丹波路

緑宮

黙想

森の夕ぐれ

田舎娘

古銅瓶

春の宵

暮の空

贈り物

文芸瑣談

芋の葉

大久保の聖人を訪ふ

緩調急調

新声歌壇

死人

俳句

文士の生活状態

悽思

雲霧行

月下の森

漢詩

藤井 紫鉄

白鳥 省吾

島守 浪雄

白鷗 女史

梅沢友太郎

多田 崧畔

紫湖 山

大沼 晁鳴

カンチャン

島村 抱月

車前草社同人

致 遠

新声同人

加藤 介春

小沢碧童選

破天公子

草村 北星

紫津 夫

美智代

岡本随軒選

車前草社詩稿

八面鋒

新刊紹介

編輯だより

同社同人

新体詩歌に告ぐ

三十九年の文界

なみだの記

新体詩

鈴虫の歌

わが姿

三つの影

夢の詩人

垣一重

寂寥

夕陽紅葉村舎詩

岨の嵐

案山子

奥の蔭路

泡沫

清驕

黄昏

日野春の丘をすぎて

夕暮犬吠崎に立ちて

蕃淑

巖の歌

斎木 仙醉

蛇いちご

児島花外選

内海 泡沫

玉島 翠影

川路 柳虹

猪股 吟鶯

三好 聖泉

公孫 樹

一軒 生

秩父根びと

浅田 鳳仙

福地 董水

高橋 楚人

今井 紫雲

作山 紫山

菅沼 千夜

渡辺甚之助

内記 雲水

松崎 青嵐

第十五編第六号 (明治三十九年十二月一日発行) 目次

明治文芸史の一区畫

奇怪なる訳述

作物と名

「常闇」の歌意につきて

自然を寫す文章

まぼろしの記

雲霧行

文界時事

よもすがら

桃花扇伝記に現はれたる人物

秋月桂太郎

新冊二三

車前草社詩稿(一)正富汪洋、(二)有本芳水、

文士演劇熱

俳優女学校

時評子

時評子

やかましや

坪内 逍遙

遅塚 麗水

清見 春波

紫津 夫

尾上 柴舟

奥村 梅阜

山田 春霄

S M

(三)若山牧水

紫峰子

紫峰子

牧場の秋

厳島に詣でて

奥州路

浅間と華厳

湖畔

詩壇彙報

緩調急調

文芸協会演芸大会の諸新聞批評を讀む

今年の文学雑誌

桑摘む家

秋思

凋落

黙禱篇

落葉日記

夕雲

車前草社稿四前田夕暮

俳句

新声歌壇

文芸協会に望む

学者の態度

和具 文潮

土井 暁雨

小 萩 女

根本かつら

酒卷 蝶夢

大鳥居古城

鵲 秋 子

三木 露風

五十嵐素香

前田 夕暮

藪 白 明

松室 美鳥

白鳥 省吾

小沢碧童選

尾上柴舟選

破天 公子

同

「筆子」をすすむ

孤客の日記

斯んな妹弟が持ちたい

あれやこれや

年末言

八面鋒

新刊紹介

短信二則

新声寄稿規則

第十六編第一号(明治四十年一月一日発行) 目次

満足

防腐会の御通牒

火の山

日本詩の発達せざる原因

小説

片折戸

英語研究者の為に

手巾

マルチン・ルーテルが教詩

通勤記

紫 峰 子

児玉 市隠

秀 峰 生

みるめの浦人

S M

徳田 秋声

尾崎 紅葉

佐々木信綱

蒲原 有明

金子 薫園

山懸五十雄

児玉 花外

塩釜 白潮

S

林

亡友孤景

冬の日

ツルゲーネフ

机上句屑

草の風

猿曳

歌の調子

新体詩 児玉花外選

神殿の夜

真洞

朝の牧場

浪の花

走る窓

月光

うつろ舟

朝にして

朝夢見草

葡萄樹

紅ふり袖

わかれ路

加藤 介春

児玉 花外

相馬 御風

白柳 秀湖

小沢 碧童

横瀬 夜雨

平井 晚村

武島 羽衣

内海 泡沫

白蛇 幻骨

横田 双蝶

三谷 芦華

猪股 吟鶯

津倉 春洋

水 羊

中田 残葩

飄 子

白 百合

奥瀬 霞翠

外島 浪濤

詩庵

寺なる君

やれ庭

雲

秋の夜

木枯

恋室

霊の行衛

新声歌壇

俳句

市歌と国民歌

船の始末—新聞界の革命—家庭小説論

三六会

屠蘇気焰

もっちゃん

宵のうち

貸本屋研究

寒潮

袖時雨

馬鹿

廣津柳浪先生

美 鳥 子

吉井 朽琴

松本 颯外

十河 桂舟

大村 流外

吉田さざん花

作山 紫山

内田 一星

小沢碧童選

時 評 子

原田 讓二

某大家談

加藤 漆花

瘦婦病客

二階下宿生

鳥海 嵩香

土屋 鳥呂

鱸 呼 牛

杜 村 生

秋雨
大西操山先生
はなしのたね
筆力と金力
噫我が友
山茶花
鬼薊
宗教家月旦
前田慧雲氏
小説の研究
車前草社詩稿
文章月旦
現代作家の文章
家庭
病床より
年始の賜り物
漢詩
緩調急調
丁未元旦
憧憬
ティーヤメ

浅見 孤星
芳 生
権 兵衛
茶 青子
紫 光子
美 鳥子
吉村 桂浦
石上樹下の人
菊池 幽芳
黒風白雨楼
美 知代
景 虹
御苦勞生
岡本随軒選
外島ふかし
武市 桃雨
重田 春子

新聞と雑誌
東京諸新聞の内幕
文界の人物
街頭の人
竹風と桂月
文壇風聞記
新刊紹介
編輯だより
第十六編第二号(明治四十年二月一日発行) 目次
駅路
沙翁の花園
一月の文壇
一月の劇界
一月の小説界
鴿飼ひ
房州行の舟中
お正月
気焔
ツルゲネフ
文学を与へよ

鉛之助
柳川 春葉
時 評子
半 月城
溪 鶯
茶青居士
斎藤 弔花
平福 百穂
湖 華
屠 蘇家
白柳 秀湖
天 巖

春の目

新体詩

大沢女

夢のささやき

枝羽鳥

孤愴吟

別れ

神無月の一

光

夢うつつ

枯野に立ちて

草庵偶吟

火の見櫓

夢語り

恐怖

心斎橋通

坤血惨憺滅盡の歌

老楽師

鴉の歌

鄙娘

花野の觸體

三木 露風

児玉花外選

江屋 遊夢

玉島 孝

佐々木白浪

松本 颯外

渡辺甚之助

公孫 樹

一橋一軒

加藤碧瑠璃

倉橋 麦笛

白陵散人

吉村 桂浦

木野 華陽

藤木 紫蔭

宗形 董風

白鳥 天巖

内記 雲外

金井 紫雲

木実谷索牛

林 蓼郎

川骨

夜の主

山茶花

君は今

おまつり

哀音

緩調急調

近角常観師

木枯

新声歌壇

女性と教会

アダムとイブ

まぼろしの記

冷たい人

俳句

車前草社詠草(一)正富汪洋、(二)有本芳水、

隆文館に望む

楠緒子女史と八千代女史

私語

文壇のさまざま

霜夜

尾山 荻萱

野崎 星江

岡本 照南

市の人

梅沢 兎鳥

清見 春波

石上樹下の人

たかじ

尾上柴舟選

吉田 碧寥

てふなり

武 雄

白石 寛爾

小沢碧童選

(三)若山牧水

伊藤 銀月

街頭の人

銀杏堂

郵便脚夫

松坂 青溪

新刊紹介
編輯便

第十六編第三号(明治四十年三月一日発行) 目次

新刊批評家の愚 故きを温ぬべし 時評子

詞壇小議 現代文人の使命 松原 至文

合評会(天外と風葉) 新声同人

公開状(竹越三又に与ふ) 破天 公子

二月の劇界 溪 鶯

二月の文壇 秀峰 病客

片々 半月 城

あら磯 三島 霜川

老婆 小川 未明

静けき夕 茶谷 紅雲

鐘の音 相馬 御風

鶉狩 鬼川 生訳

青の里 松本 琴潮

尼三人 高安 月郊

ロマンチックムーブメント 加藤 漆花

熱の湯のお駒 紫津 夫

籠行燈 美知 代

新体詩

鉦夫

夏やせ

秋半ば

なげのなさけ

雛鳥賦

小曲三章

賀茂なる小母に

乞食の秋

霹靂

病む朝

落花の夜

冬の野に立ちて

逝く春

森

新声歌壇

新声俳壇

緩調急調

車前草社詩稿(一)若山牧水、(二)正富汪洋、

新聞記者腕くらべ

辞典流行の世の中

児玉花外選

白蛇 幻骨

内海 泡沫

青山 朗濤

吉井 朽琴

筒井 花環

十河 桂舟

松室 美鳥

浅田 白樺

水野 華陽

中野 金鳥

盛谷 天風

古泉 生

赤松 霧江

多田 東秋

小沢碧童選

(三)有本芳水

七 彩 楼

「懺悔」を讀む

野の子

糸かけ桜

平井 晩村

新刊紹介

ロマンチックムーブメント(ダンテと二詩人)

加藤 漆花

第十六編第四号(明治四十年四月一日発行) 目次

湯ざめ肌

中山 露峰

文芸保護者としての侯と伯

時評子

たちんぼ

白石 苔衣

平凡醜悪なる事実の価値

片上天弦

竹外一枝

岡本 随軒

詩壇漫言

漫言子

新体詩

児玉花外選

三月の詩界

女てう女

加藤碧瑠璃

三月の小説 三月の劇界

小曲三章

江村 青花

藤村と漱石

合評会

天風魔帆

横田 双蝶

硯友社遂に亡ぶ

破天 公子

朝市

恋の人

縦横無盡

矛盾

公孫樹

公開状(新佛教諸公に寄す)

天災老人

愕然

吉田山茶花

合宿

窪田うつぼ

春の日なりき

増田 紅風

わか草

岡田美知代

暗夜

内田 一星

雨

加藤 介春

海一日

堀岡 芳雲

泡

三木 露風

花守

大脇 市浪

罪の屍

森川 葵村

炎霊

畦の花守

夜の人

有本 芳水

玲瓏

関 夕花

女夫婦

大橋 醉月

幻影

高橋 楚人

武蔵乙女

外島賦歌子

香木

金子 暁潮

森の運命

ああこの怨恨

波のうたごえ

芸術の花

女郎女

短歌、俳句

漢詩

こころ解

「尾崎紅葉」について

新聞は面白からざるべからず

昨今の出版界

緩調急調

文壇一百人

新刊瞥見

第十六編第五号 (明治四十年五月一日発行)

目次

秋山君

徂春漫筆

寫生文評論

時代の研究

女の墜落と論客の無責任

野田 天鞋

長橋 白衣

山下 里下

花田 翠波

森 五郎

小沢碧童選

岡本随軒選

吉村 桂浦

新声記者

某大家談

A・B・C

呼び出し屋

荒れたる伏見

おも影

御おとづれ

一言坂

彼の妻

心なしの妻

黄昏

菖蒲太刀

春句

苔ばら

寂寥

みだれ心

夕

夢の世

秋の日

新体詩

ゆきだをれ

砂漠

冬きたる

空柱

石丸 紫水

内山 夕虹

美 知代

吉村 桂浦

佐藤 緑葉

飯田 弔風

沢田 霞溪

清水 一進

松本 颯外

十河 桂風

川崎 蛮月

大橋 酔月

小 萩 女

児玉花外選

公 孫 樹

飯田 蛇骨

浅田 白樺

江村 青花

大竹 紫葉

野の花の嘆き

胸を擁いて

春愁吟

師走あれ

わか草

春譜

山取頭吟

春の海

機械室

城ヶ島

和歌

ロマンチックムーブメント

十五夜

水葬

醜の香

湖上

女

国木田独歩

緩調急調

俳句

「二十八宿」を読む

松室 美鳥

松本 颯外

河村 白陵

表 棹 影

秩父根びと

玉 島 孝

十河 桂舟

伊 藤 醉

長井 閑村

水野 華陽

尾上柴舟選

加藤 漆花

野口 雨情

有本 芳水

三谷 芦華

人見 東明

同

合 評 会

小沢碧童選

落 城 生

「わがおもひ」を読む

文壇一百人

車前草社詩稿

新刊瞥見

寄稿規則

第十六編第六号(明治四十年六月一日発行) 目次

少女

文壇の危機

寫生文評論

白嬰粟

倫理の先生

雪の降るを見る

五月晴

妖女三律

一泊

幻影猥

泉月抄

長詩

砂書き

ふるさと

せせらぎ

呼び出し屋

若山牧水、正富汪洋

S M 生

水野 葉舟

吉田 碧寥

鵠 秋 生

金子 薫園

西村 醉夢

児玉 花外

山本 露葉

吉野 臥城

土岐 湖友

王 秋 哉

若山 牧水

児玉花外選

白蛇 幻骨

江村 香花

土橋
暮笛
狂女が岩
神の声
根じる高萱
水車場の人
出迎
絃のひびき
日曜の逍遙
人は人なり
火潮
女神の使
高野の少女
木棉擲
落日
壁の土
短歌
俳句
緩調急調
「平民主義」を読む
現代の作家が描く女性

内田 一星
倉橋 麦笛
横田 双蝶
一橋 一軒
浅田 白樺
河村 白陵
島守 浪濤
花びし
岸守 夕雨
野の花守
水野 華陽
大森 花泉
神田 一路
平井 晩村
秋野 憂人
川路 柳虹
尾上柴舟選
小沢碧童選
△ × △
野の子
花浪生

臯月録
ロマンチックムーブメント
呪はれたる新聞記者
墓
東京博覧会日本画略詳
与謝野寛
新刊紹介
第十七編第一号(明治四十年七月一日発行) 目次
理想的俳優と新脚本
新聞記者
払榻録
車
神楽
鐘
緩調急調
平民社派の文士
弱者
宿屋の娘
月青し
或とき

松 原 生
加藤 漆花
老 子
青木 秀峰
駿 蹄 生
G 生
坪内 逍遙
川下 江村
河井 咀華
尾上 柴舟
小川 未明
児玉 花外
△ × △
風満楼主人
横瀬 夜雨
荒畑 寒村
若山 牧水
細越 夏村

有明
 亀さん
 男舞踏
 長詩
 傷める鳩
 火薬庫
 月琴の人
 さくら石斑魚に添えて
 死の原
 市区改正
 夢ごこち
 泥濘路
 落日
 瞽女
 大原女
 鹿の歌
 代材
 駅路
 短詩
 俳句
 闇黒なる文壇

前田 夕暮
 岡田美知代
 正富 汪洋
 児玉花外選
 横田 双蝶
 奥瀬 霞翠
 江村 青花
 室生 犀星
 白 樺
 巷の子
 玉島 孝
 外島賦歌子
 藤原 菊野
 増田 紅風
 竹友 花笛
 木寓 山人
 土井 暁雨
 川本 翠汀
 尾上柴舟選
 小沢碧童選
 吉田 碧寥

たなばた
 「静夜」を読む
 人を送る
 近時の創作界
 新聞小説の挿絵評
 劇界近事
 沈丁花
 新講談論
 編輯便り
 新刊紹介

新声歌人
 新声同人
 伊藤 銀月
 ×○×
 天童子
 魔 王
 重田 はる
 余 材子
 一 記者
 新声同人
 街上 観
 若山 牧水
 碧 寥生
 合 評 会
 夕日が岡主人
 服部 嘉香
 秋野 憂人
 K T 生

第十七編第二号(明治四十年八月一日発行) 目次

第十七編第三号（明治四十年九月一日発行）目次

新秋の辞

記者

トルストイ観

綱島 梁川

雲の峯

児玉 花外

露

横瀬 夜雨

海外近代文学研究

炎の 人

禅寺の夕

福永 秋光

濁流

細越 夏村

木がらし

内海 泡沫

涙おさへて

重田 春子

五人の心

柴津 夫

緩調急調

宮川 春汀

日本画の進路

K T 生

薄田泣菫氏来書

高浜 長江

鳩村

知久 峡雨

煙草

若山 牧水

南海行

玄 夢 楼

凡人語

伊藤 銀月

小川芋銭と小杉未醒

吉田 碧寥

「神愁鬼哭」を読む

八月の詩壇

紅葉君の色々

「大農」を読む

笛の音

座布団

小曲三章

曠野

恋の花

真燈の瓊

雲に告ぐる歌

響音

幼き霊の追憶

唄声

君ぞ恋しき

楽人

夜店

野薔薇

愛の焰

我と人と

水無月

丸山久之助

門外漢

懐春郎

荒畑 寒村

大竹 紫葉

白蛇 幻骨

桂舟 漁郎

水野 華陽

大森 花泉

山本市の人

高照 千夜

渡辺 柳蔭

尾山 莉萱

山本 蒿村

佐野 蒼天

筒井 龜子

梶 御 夢

佐分 柴花

花田 翠波

竹山 永習

詩人 井上 紫星
 和歌 尾上柴舟選
 俳句 小沢碧童選
 まどはし 高仲 菊子
 新刊概見 記 者

第十七編第四号 (明治四十年十月一日発行) 目次

川霜 三島 霜川
 冷やけさ 尾上 柴舟
 現代露西亞文学 昇 曙 夢
 モオパッサン小説論 馬場 孤蝶
 盗風 鍬 鍛 冶
 妙好人 土岐 湖雲
 恋ざめ 荒畑 寒村
 「蒲団」を読む △ □ △
 女流作家の地位 × △ ×
 生命の文学 吉田 碧寥 ○ × ○
 緩調急調 ○ × ○
 地方の友に与へて
 中央文壇の近状を報ずるの書 なつぐも生
 破壊と保守 中島 孤島

今日の小説 紅葉君の嗜好
 日のおぼろなる 老嬢
 土手三番町 高きに登りて
 社会の罪 逢魔時
 流涕 わだの原
 一瞬時 燈心
 夢盗み 野木のうれひ
 女子もって 縁日
 下駄 花袋氏の「蒲団」に現はれたる事実
 綱島梁川先生 新体詩
 和歌

中里 介山
 武内 桂舟
 金子 薫園
 吉井 恒子
 岡田美知代
 植村 輝子
 重田 春子
 高仲 菊子
 前田 夕暮
 若山 牧水
 村木清一郎
 高浜 長江
 服部 嘉香
 清水 橘村
 加藤碧瑠璃
 秋野 憂人
 上司 小劍
 中山 落峰
 野の 人
 児玉花外選
 尾上柴舟選

俳句
新刊紹介

小沢碧童選

情性

伯母の家

心の小品

「紅塵」を讀む

「紅塵」と「離愁」

新体詩

和歌

俳句

編輯局より

新刊紹介

杜鵑花

内山夕虹

懷春郎

郊人

野嬰粟

児玉花外選

尾上柴舟選

小沢碧童選

第十七編第五号(明治四十年十一月一日発行) 目次

秋

代表的愚論

投書家論

芸術家の嫉如

はるの胸

一一不二

処女の微笑

信号旗

倉二階

小品二篇

飴うり

若さ

緩調急調

牛

花婿君

ななしみづくさ

菊の田

佐藤 緑葉

鍛 鍛 冶

郊 人

正富 汪洋

土岐 善麿

福永 秋光

三谷 芦華

恒川 石村

内山 白水

綿貫 仁門

若山 牧水

潮 音 楼

山本 柳葉

秋野 憂人

石原 鬼灯

第十七編第六号(明治四十年十二月一日発行) 目次

美人茶屋

姉妹

自然主義と虚無的思想

ピーター・クロポトキン

市川高麗蔵に与ふる書

丁未思想界の回顧

落日

長夜

断崖

岡田八千代

若山 牧水

白柳 秀湖

安 成 生

鍛 鍛 冶

吉田 碧寥

服部 嘉香

有本 芳水

森川 葵村

秋雨ふる日

秋野 憂人

評論、研究

冬の夜

田中 辰雄

自然主義と道徳

相馬 御風

狂乞丐

斎藤 柴村

恐ろしき生存よ

吉田 碧寥

雑誌瞥見

市川左団次論

詩壇の風潮

瀬尾 雪波

明日

前田 夕暮

詩壇の風潮

武蔵 守

鼓の枕

正富 汪洋

ゴルキイ作「同志」

堺利彦

沈黙

若山 牧水

海外文壇消息

炎水生

疲労

土岐 哀果

詩歌

尾上 柴舟

緩調急調

同 人

葉と葉

岩野 泡鳴

里居の人

重田 はる

端唄

児玉 花外

姉

内山 白水

我が影

加藤 介春

百草行

緑 葉

恋ひなば来れ

小沢 碧童

秋愁

矢沢 楓

薪一束

有本 芳水

閑言集

牧水 生

深夜

三谷 芦華

雑記瞥見

児玉花外選

鴉片

加藤 朝鳥

新体詩

尾上柴舟選

蛻けし夢

水木 英夫

和歌

小沢碧童選

生ける死

若山 牧水

俳句

同 人

山の霞

正富 汪洋

新刊紹介

あだなる影

服部 嘉香

詩二章

内海 泡沫

蟋蟀

夢の饗

可笑しさ

天華

散文

除隊

彼の少女

都会の人

恵

墓上の少女

演奏会

庭の小路

熊本先生

幸福者

雑纂

緑雨は窮死せず

雑誌瞥見

編輯局より

新刊紹介

附録

批評家論

秋野 憂人

綿貫 仁門

村木清一郎

鈴木春江等

福永 秋光

恒川 石村

小野 小峽

服部 嘉香

安成 真雄

安成 二郎

清見 春波

几丁 生

山口 三郎

馬場 孤蝶

断頭台

降誕昇

筆ついで

雨の夜

別れ際

二見物語

産衣

駅長

馬場孤蝶訳

曙 夢 訳

晏如生訳

三島 霜川

真山 青果

平木 白星

河井 醉茗

上司 小剣

第十八編第二号(明治四十一年一月十五日発行) 目次

評論、研究

女優排斥論

ゴルキイ作「同志」續

巷人語

卷末録

詩歌

明日

明暗

大風

遠望

われ歌をうたへり

青柳 有美

堺 利彦

吉田 碧寥

閑古鳥生

尾上 柴舟

水木 英夫

前田 夕暮

正富 汪洋

若山 牧水

遺稿

故、日高ひで

雲

山下 芳葉

新体詩

児玉花外選

和歌

尾上柴舟選

俳句

小沢碧童選

散文

少年の時

佐藤 緑葉

別後

くちなし

暴風雨

三沢 寥花

大東日記(一)

哀果、秋光

心の小品(二)

安成 二郎

おばさん

大沢 治作

乾あれ

手塚 翠江

波のしぶき

重田 はる

悲しき謎

小野夕波女

富美ちゃん

岸 ひさ子

閨

高仲 菊子

雑 録

雑誌瞥見 イブセン逸話「新思潮」より

大家讀書調査

緑雨の死に就いて

幸徳 秋水

緩調急調

新刊紹介

第十八編第三号(明治四十一年二月一日発行) 目次

仏国最近の小説壇と非自然派の作物 栗原 古城

肉感描寫の意義 松原 至文

卓上雑話 黒 雛 生

「有明集」を讀む 閑 古 鳥

「鶏頭」を讀む K 生

「青果集」を讀む S S 生

詩 歌

路上(長詩) 蒲原 有明

仮面(短歌) 尾上 柴舟

さこそあれ(ロセチ) 水木英夫訳

海よ人よ(短歌) 若山 牧水

村娘(短歌) 正富由太郎

禱れど(短歌) 土岐 哀果

流転(短歌) 三谷 芦華

長詩 児玉花外選

散 文

断頭台(ツルゲエネフ) 馬場孤蝶訳

ツルゲエネフの書簡

蒲鉾島

握飯

水曜会

大東日記(續)

土岐哀果

乞食

僻根性

沼

雜纂

緩調急調

新刊紹介

第十八編第四号(明治四十一年三月一日発行) 目次

病榻雑話

自由思想と文芸

憔悴

悪の窓

盲目の行列

硝烟

壁書

大杉 栄訳

加藤 朝鳥

荒畑 寒村

若麻績長風

風早 秋光

徳永 狂風

斎藤 紫村

内山 白水

同 人

晴れたる空のもと

秋の日

まさをみな(ロセチ)

少年の時

君のかたへに

冷笑

乱れ

人妻よ少女よ

春の日

つめたき

現代社会は自然主義か

新体詩

和歌

俳句

緩調急調

二月詩壇

「カルコ集」を讀む

小論議

新刊紹介

新聞雑誌抄録 島崎藤村、アーサー・ロイド、上司 小剣、太田正雄

三木 露風

風早 秋光

水木 英夫

佐藤 緑葉

土岐 哀果

前田 夕暮

若山 牧水

安成 二郎

矢沢 楓

木村 白葉

山の 人

児玉花外選

尾上柴舟選

小沢碧童選

同人 等

T 生

くちなし

S Y 生

第十八編第五号（明治四十一年四月一日発行） 目次

遊食の惰民

所謂社会主義者と自然主義の末流

走り過ぎたる自然主義的創作

人は主義に囚はる

續病榻雑話

灰色

断頭台（完）

二絃一絃

春泥

喪服

天鯨

座を立ちぬらば

下り坂

新詩

風

夜の川

春昼

絶命

少年の時（三）

庭園の快楽

緩調急調

第二の恋

巡査

京の一夜

新体詩

和歌

俳句

情死論

春の昼

三月の詩壇

一二言

新刊紹介

同人

内山 白水

寺岡 白藤

安成 二郎

児玉花外選

尾上柴舟選

小沢碧童選

福山 笑迎

太田 糸子

T 生

安成 生

第十八編第六号（明治四十一年五月一日発行） 目次

文界評論

都市生活の文学

中央思想の模倣

芸術作品取締の質問

空騒ぎ

形式文芸の代表者

社会に対する文芸の矛盾

新声同人

余裕を欠ける当今の新聞記者
鏡花党の諸氏健在なりや

あくび

歴史家の見たる現代の思潮

ふるき歌

二篇

二連詩三章

驕れる女（ゴルキ！）

黄蠟

鎌倉雨中記

筑紫ぶり

獣は遁げぬ

無気力者崇拜の詩壇

小品

ワグネルの楽劇

疲労（上）

水瓜畑

場末

緩調急調

春の日（モウパッサン）

新体詩

平木 白星

浅野利三郎

秋元 芦風

同 人

内海 泡沫

橋本 青雨

秋庭 俊彦

村 の 人

中尾 紫川

吉 井 勇

正富 汪洋

原田 春齡

なにがし

土屋 月芳

奥瀬 霞翠

外島 外濤

同 人

羽太 鋭治

児玉花外選

和歌

俳句

眼

教師

ツルゲーネフとゾラ（二）

卷末録

鏡花の「頬白」花袋の「兄」及青果

の「男性」及び其他本月の小説

新刊紹介

編輯同人

尾上柴舟選

小沢碧童選

今村しづを

今任 遜亭

大杉 栄

編輯同人

第十八編第七号（明治四十一年六月一日発行）目次

イブセンが作詩の材料

橋本 青雨

一、ブラン のモデル 二、ノラの成立

三、ヘッダガアブルの材料

白鷺

児玉 花外

行司的批評

長谷川天溪

暗のひらめき

人見 東明

睡慾痴なる者よ

醉中吟

福田 夕咲

啞蟬集

秋庭 俊彦

余裕なかるべからず

春

子供の歌 山越えて春は来ぬらし

花のいのち

平明調

その頃

俚謡三章

まだ見ぬ山

家康公について

夜路

青みな月

第三者

家鴨

杉葉

白山嵐

高野詣り

三国橋

緩調急調

観相記

拾ひ文

笑ひ声

木下 尚江

秋元 芦風

和歌

新体詩

俳句

地方文壇

自然主義より象徴主義へ

千駄愚草

疲労(下)

春の日

霞ヶ岡

御神燈

中央文壇

新刊紹介

寄贈書目

尾上柴舟選

児玉花外選

小沢碧童選

編輯同人

生田 長江

与謝野 寛

土屋 月芳

羽太 鋭治

藤井 白藤

渡辺 松郎

編輯同人

第十九編第一号(明治四十一年七月一日発行) 目次

独歩追憶談

僕と独歩君

早稲田時代

余の知れる独歩君

竜土会の起りに就いて

編輯長としての独歩君

小栗 風葉

田村 江東

蒲原 有明

小山内 薫

岩野 泡鳴

情に厚かりし独歩氏
 噴火山の如かりし
 僕の知れる独歩君
 独歩氏肖像 独歩氏書翰 独歩氏著作
 年表 新興文学
 予の態度
 表象主義と現実生活
 茅ヶ崎より
 葬儀式
 回転
 わがおもひ
 夏の月
 小曲三章
 ポールプルチェ
 詩二篇
 心の誇
 香篋
 驟雨
 緩調急調
 灰色の雲
 奥武蔵

斎藤 弔花
 柳川 春葉
 草村 北星
 小栗 風葉
 泉 鏡花
 岩野 泡鳴
 真山 青果
 平木 白星
 綿貫 仁門
 内海 泡沫
 正富 汪洋
 中尾 紫川
 安成 貞雄
 秋元 芦風
 前田 為錢
 山上 上泉
 高橋 晩雨
 新声 同人
 高仲 菊子
 外島 浪濤

春の家
 盲動
 小品四種
 向の家
 新体詩
 和歌
 思川
 清ちゃん
 肌寒
 浅間の絵葉書
 第十九編第二号(明治四十一年八月一日発行) 目次
 自然主義の絶対境
 樟の合奏
 ただひとり外五篇
 誰れか知ら
 夏の自然
 夕されば
 詩二篇
 夜半
 紫陽花

野々口楚泉
 内山 夕虹
 今村しつを
 中川 棹歌
 今村夕秋等
 近藤嵐翠等
 加藤 一骨
 鈴木 春吉
 土屋 月芳
 児玉 花外
 相馬 御風
 北原 白秋
 秋庭 俊彦
 人見 東明
 蒲原 有明
 若山 牧水
 森川 葵村
 秋元 芦風
 高浜 長江

「灰燼」に現れたる当代の青年

兄弟

詩三篇

妖魔の乳房

真昼

破戒者外五篇

活動

抗夫

愚痴

うつつ心

男妾

宗左衛門

仮枕

湯治

光江

静かな夕

秋の花

文庫の新詩月評について

夏蔭

緩調急調

新体詩

岡田 孤煙

野々口楚泉

山上上泉

正富 汪洋

内海 泡沫

綿貫 仁門

内山 夕虹

山口 鉄拳

中島 白汀

土屋 月芳

尾崎 水禽

室生 犀屋

島地 如丈

手塚 翠江

波多野蛍光

田方 露香

岡本 梁村

村田 生

露韻、未春等

児玉花外選

ひとりの放浪者

「欺かざるの記」

「乞食」を讀む

「海の声」をよむ

新刊紹介 寸光録、常夏、新体詩作法、乞食、乳房

の娘、水野越前守、乳人政岡、マリア姫、英米名家

詩選、独歩集第二。

第十九編第三号（明治四十一年九月一日発行）目次

そら肖

思ひ出二十五篇

（水ヒアシンス——乳母の墓）

属官

熱ある夕

十日十夜

めつこべえこ

断片詩

家鴨

寂寥

詩三篇

火の胸

中島 水鳥

故、国木田独歩

村 村 生

A A 生

小栗 風葉

北原 白秋

桐生 悠々

前田 夕暮

若山 牧水

島の 児

服部 嘉香

秋庭 俊彦

福田 夕咲

山上上泉

佐々木愛湖

南風

日はくれぬ

新声詩壇

新声歌壇

新声俳壇

豆の葉笛

緩調急調

地方文壇

笛 八乙女

散文

小品

新刊紹介

評釈

本居宣長言行録

る森

問答

郊外生活

邪宗の詩八篇

陰影

(訳詩四章)

西條 冷果

中野 紫葉

児玉花外選

尾上柴舟選

山本 露滴

白虹 山鳩 明

かたばみ

潮

内山白水、横田彰、高瀬千夜

杉山 未春

病状録、水野越前守、乳屋の娘露、俗曲

作文法講話、ガリバルヂ言行録、

血笑記、金盃、静かな

花と鳥、徴兵

目次

河井 醉茗

北原 白秋

長田 秀雄

或朝

近作二十八首

短篇三章

見えざる影

黒き扉の前にて

新詩六篇

崖の反照

店頭

涙

車上

女の身

月の九十九里浜

養子

めつこべえこ

妙な人

椿の家の姉君へ

すい影

立秋

夕陽

短夜

孤独

市野 白雨

前田 夕暮

内藤 晨露

秋庭 俊彦

太田 正雄

正富 汪洋

山上 上泉

内海 泡沫

鈴木 野火

池本 奇燦

紫雲 女

土屋 月芳

野呂 楚泉

島の 児

外島 浪濤

小草 女

今村しづを

関本 梁村

田方 露香

大橋 醉月

史郎

史郎

史郎

史郎

史郎

史郎

史郎

史郎

史郎

史郎

夜の磯

街路

見習士官

学の園

處女

緩調急調

新声詩壇

新声歌壇

飯田みどり

森川 槐山

ひれふる人

山口 園子

野口 春影

児玉花外選

尾上柴舟選

無形劇場を創すの議

嫁の根性で書く

半年の経験は浅いが

小説の上場に就いて

脚本は逆戻り

緩調急調

新任美術審査官

枯れゆく身

小品四篇

旧友

憂愁なる一瞥

倉どん

目白

細工場

小品二種

居酒屋

赤麻沼

新声詩壇

新声歌壇

地方文壇

新刊紹介

小山内 薫

岡本 綺堂

柳川 春葉

田口 掬汀

伊原青々園

坂井久良岐

牧 暁 村

手塚 翠江

内山 白水

法月 紫屋

西條 冷果

島地 如文

田中 孤葉

山田 生穂

山本 蒿村

加藤 一骨

児玉花外選

尾上柴舟選

第十九編第五号(明治四十一年十一月一日発行) 目次

自由なる詩歌

十月のおとづれ

断片詩二篇

詩二篇

寂寥

近作六十二首

多摩川の一日

詩二篇

さびしき日

暮れゆく海

遠岡

蘭部雪石、紫雲女

ピヤ言行録、ジョンブル、大塩平八郎言行録、筑波
紫、海上王、維新前後

第十九編第六号(明治四十一年十二月一日発行) 目次

森林にて 三木 露風

文芸時評 村田 犀川

明治四十一年暮れんとす

「復活」の翻訳

梁川書簡集

日本の文芸家として外国文学を談ずべし 加藤 介春

煉瓦の壁 三谷 芦華

お常 佐々木 繁

ある時 北川英美子

南国 近藤 嵐翠

詩二篇 山上上泉

公設展覧一巡記 A B C

関西洋画展覧会と故浅井忠氏 S K 生

玉成会 of 作品 合 評 子

真野暁亭 阪井久良岐

安立と不安 宮沢 白榆

沙上 内海 泡沫

秋の日の午後

街の歩み

若しも(クリスティナーロセッティ)

秋のおもひ

ふるさと人

蒲団

月夜

新声選歌

緩調急調

新声選詩

新声短歌会詠草

高原の月

暁湾

偽り

新刊紹介 梁川書簡集、チェホフ傑作集、復活、人

物之修養、ラスキン言行録、ベーコン論説集、大聖

釋尊、外国文学研究法、長恨春、痛快、ビスマーク

言行録、秋声集其他

加藤 精一

高田 浩雲

高山 春鳥

秋元 芦風

土屋 瘦猿

内山 夕虹

杉山 末春

尾上柴舟選

兎玉花外選

前田夕暮選

矢崎 紅葉

関 清 湾

若山 牧水

第二十卷第一号(明治四十二年一月一日発行) 目次

詩一篇

相馬 御風

談理の徒を排す

ホイトマン散文詩篇

社会本位の文芸

新聞小説について

宙外君に寄す

ゆづり葉

眼をとちて

魔詩

問題小説

国民性なき現代の文学

小説に於ける女主人公の変遷

讀者としての希望

劇界の維新時代

吾人の芸術観

男女俳優養成所の諸子に誨ゆ

地方色と作物

郷土の性癖と郷土の文学

地方色と作家

作品の了解と地方色

二家族と五月幟と村塾

地方色と文芸

村田 犀川

岩野 泡鳴

樋口 竜峽

池辺吉太郎

中島 孤島

与謝野晶子

前田 夕暮

児玉 花外

長谷川天溪

斎藤 信策

木下 尚江

宮 田 修

杉谷 代水

幸徳 秋水

水口 薇陽

秋田 雨雀

三島 霜川

相馬 御風

正宗 白鳥

松原 至文

作家の個性と地方色

N君へK生より

鉄片

墓

緩調急調

新著寸評

田口掬汀兄に

落葉外一篇

月光

詩話(一)

詩五篇

齒

血縁

旅の一夜

空

外国文学研究者のために

断片詩

實際と想像

新声歌壇

新声詩壇

近世英文学講話

徳田 秋声

小山内 薫

小川 未明

秋田 雨雀

犀川 生

H N M

三木 露風

蒲原 有明

与謝野 寛

加藤 介春

佐々木 繁

真山 青果

三島 霜川

金子 薫園

馬場 孤蝶

服部 嘉香

A生 B生

尾上柴舟選

児玉花外選

戸川 秋骨

孤愁

最近の美術界

関西美術界の回顧

詩壇一年の回顧

昨年の地方文壇

明治四十一年小説界の概観

四十一年の短歌会

新声短歌界詠草

抒情詩四篇

青き色

醒めたる朝

三島の泊り

盲人

われ死せり

野崎君

獲物

新刊紹介

第二十卷第二号(明治四十二年二月一日発行) 目次

答のあと

新声時論

静美、紫星

紀星峰

S K 生

服部 嘉香

小木曾旭晃

榕 樹 生

前田 夕暮

白花、天裳等

森川 葵村

有本 芳水

内海 泡沫

八木 梧郎

内山 白水

中野 紫葉

岡本 白水

河井 醉茗

社会化せられんとする文芸

若し文芸的述作か職業ならば文芸問題

としての三面記事

文学志望の青年に告ぐ

寫生文と自然派

詩談数則

音声と人物

小説は必ず恋愛談ならざるべからざるか

目のまへ

再び外国文学研究者のために

脚本概説(一)

教授の脚本論略述(ブランドアマシウス)

詩話

大隈言道の歌

森より

春調(ゴルキー)

富士春秋

児玉花外氏に与ふ

さびしき人

つめたい日

放って置

安成 磯雄

阪本文泉子

蒲原 有明

遠藤 隆吉

元良勇次郎

尾上 柴舟

馬場 孤蝶

小山内 薫

与謝野 寛

水野 葉舟

神崎沈鐘 識

斎藤 弔花

沢村 止戈

土屋 瘦猿

高仲みどり

暗愁三篇

飯田みどり

緩調急調

故郷にて

正富 汪洋
近藤 嵐翠

新刊紹介 俗曲評釈、女馬賊、家庭文芸名論卓説、

海

江波戸白花

閨秀文範、欺かざるの記後篇、花袋小品

小説、蓬生

与謝野 寛

新声詩壇

児玉花外選

小品、父親

平塚 明子

旅せし人より

なにがし

緩調急調

平塚 明子

新声歌壇

尾上柴舟選

新声詩壇

児玉花外選

新声短歌会詠草

陽狂小章

高照 千夜

編輯便り

僕の小品

坂梨 葉村

白鳥

山国小品

秋 峯

第二十卷第三号 (明治四十二年三月一日発行) 目次

我

山本 嵩村

中央文壇を警む

与謝野晶子

甲種合格

津知居業迂

海外文学研究 (一)ドストエフスキ小説

厨川 白村

新声歌壇

尾上柴舟選

アンナ・カレニナ (上)

馬場 孤蝶

編輯便り

尾上柴舟選

赤チヨッキ

草野 柴二

近世英文学講話

児玉 花外

第二十卷第四号 (明治四十二年五月一日発行) 目次

近世英文学講話 (二)ディケッンス

戸川 秋骨

社会的誤案の犠牲となれる萬龍

脚本概説

小山内 薫

革新の辞「社説」

ブランドアマシクウス教授の脚本論

小山内 薫

文学商賣とは「論壇」

懶惰

前田 夕暮

日本文学の前途

上田 萬年

啜路

山上上泉

学生問題の今昔

横井 時雄

「修養」学生日々の修養法

報徳主義は勤勉主義

学生の性慾

「社会」

社会的誤案の犠牲となれる少女の運命

美人の悲惨なる末路を弔ふ

文士の實際生活

下宿屋廿四時

「文芸」詩話

文芸雑話

俳句の本領

短歌の将来

北斎の画風に就て

「小説」千駄ヶ谷

手

破談の記

「雑俎」陽春に囚はれたる情死

備考(岡野)

本号は革新号と称した。

井上哲次郎

留岡 幸助

加藤時次郎

秀 湖 生

伊藤 銀月

寒 山 子

X Y Z

与謝野 寛

中沢 臨川

内藤 鳴雪

三井 甲之

中村 不折

与謝野晶子

橋本 青雨

小 宵

千里 江陵

恋愛の近代的色調を論ず(社説)

男性学生と性慾問題(修養)

※小説家の見たる十八九の女

温順しいのが好きだ

真剣になるので嫌だ

一般と異りはない

男の味を解した女

一度は怗うした娘の時代

水野葉舟君の畑さ

或は恋するかもしれぬ

人生の最も甘い感

社会百方面の文芸観

恋愛小説を排す

水に竹を接ぐ文学

小説家は学者だと思ふ

色男には誰がなる

電車賃も無くも小説だと思へば

文学は宇宙の秘奥を発く

小説を読み堕落せる一少女の懺悔

小説挿画論(文芸)

巻頭 つかむおもひ

白柳 秀湖

三原新太郎

廣津 柳浪

真山 青果

正宗 白鳥

三島 霜川

泉 鏡花

徳田 秋江

徳田 秋声

白柳 秀湖

増田 義一

伊井 蓉峰

芹沢 才三

金田源三郎

山田 友蔵

前田 慧雲

記 者

神崎 沈鐘

尾上 柴舟

論壇

現代一人の巨人なきか

事実と法則と理想

団体生活の基礎

修養 国民の品性

社会

文士の實際生活

下宿屋廿四時

文芸

短歌の将来

ドストエフスキイの小説

アンナ・カレニナ

文壇廻転の一動因

厨川白村氏の中央文壇を警むを読む

小説心一つ

小品一種

雑組

情死を逐げたる男女を見る

批評の標準と白馬会評

俳優養成所の試演を観る

巴里より

記者

姉崎 正治

田中 茂穂

浮田 和民

寒山子

X Y Z

尾上 柴舟

馬場 孤蝶

草野 柴二

高橋 仁

田中 落村

三島 霜川

斎藤 弔花

伊藤 銀月

戸張 孤雁

神崎 沈鐘

高村光太郎

短篇小説。小品文。新体詩。和歌。俳句（投稿）。

嗚呼二葉亭。懸賞募集。編輯局より。次号予告

備考（岡野）

本号は右目次中※を付せる一文により発禁となる。

第二十卷第六号（明治四十二年七月発行）目次

時代の勝者たる婦人を論ず（社説） 村田 犀川

文芸と行政権 湯原 元一

恐る可き犯罪の増加（論壇） 斯波 貞吉

御園に現はれたる文士の運命（社会）

頓死す可し（漱石）

人妻を盗む（葉舟）

嫉妬深き人（薰）

女に惚れらる（柳浪）

女に嫌はる（天弦）

男に持てぬ人（しぐれ）

亭主を臂に敷く（楠緒子）

小説を止す可し（天外）

小女を食ふ人（草平）

神経衰弱となる（有明）

極楽には行けぬ（鉄幹）

強姦罪にて入獄す（紅緑）

女に殺さる（荷風）

今年中に死す（泡鳴）

電車に引殺さる（花袋）

現代小説家は如何に恋愛を描く乎（社会）

小説を読みつて墮落せる一少女の懺悔

（雑組）

卷頭 夏の空

論壇

在来思想の統一者出でよ

吾人は何時も試むるなり

修養

英語の研究

海水浴と衛生

斬新なる記憶法

社会

文士の実生活

自然主義的追悼会

文芸

オノレ・バルザック

文芸の階級的観念

記者

前田 夕暮

村田 犀川

木下 尚江

杉山 重義

岡田 栄吉

中山 波山

寒山子

生田 長江

相馬 御風

現今の日本絵画

太平洋画会批評

思索上の疑惑に因する葛藤

小説、二日間

脚本、復讐

雑組

風采観

緩調急調

論文

煤煙を読む

海老名弾正論

誤られたる自然主義

極端と極端

社会主義に就て

嗚呼二葉亭逝く

短篇小説。小品文。紀行文。新体詩。短歌（投稿）

編輯局より

投稿規則

次号の予告

レブカ生

村田 犀川

徳田 秋声

末松 紫暁

伊藤 銀月

白石 潮

中島 孤峯

辻井 琅々

宮崎 柳雨

吉原 吟月

石川宇三郎

第二十卷第七号 (明治四十二年八月 日発行) 目次

発売禁止来る (社説) 記者

風俗壊乱と文芸 (論壇) 三宅雄次郎

旧幕時代の学者の議論 (論壇) 三上 参次

御蘭に現はれたる文士の運命 (社会)

女子をチラス人 (鏡花)

平和な生涯 (葵山)

病氣永ひく (秋江)

淋しき生活 (八千代)

妻君泣かせ (風葉)

女に惚れらる (白鳥)

浮気を慎む可し (夏葉)

酒色を慎む可し (霜川)

待人来らず (籌子)

漸時幸運に向ふ (秋声)

女学生の観たる現代文士 (社会)

白鳥の『地獄』と上田敏の『心』が大好き。漱石と

鏡花が大嫌ひ荷風は好き。『煤煙』は衝込み方が足

らぬ。花袋、秋声、霜川、霧川の人格評。漱石の『虞美人

草』と藤村の『破戒』が大好き。

日比谷公園の夕 (雑俎)

巻頭 波々と注ぐべし 児玉 花外

論壇 避暑せし人へ、避暑せざる人

文壇報徳主義 村田 犀川

修養 十九世紀の美術 記 者

社会 文士の実生活 記 者

日蔭日記 寒山子

文芸 英塞信民族と個人主義の系統 春江 花月

夏期休暇と寫生旅行 白柳 秀湖

文芸批評家の抱負 戸張 孤雁

小説 金山城 川島 風骨

脚本 復讐 村田 犀川

雑俎 心中は粹なものだらうか 末松 紫暁

避暑案内 萩 舟

緩調急調

論文。短篇小説。小品文。紀行文。寫生文。美文。

新体詩。和歌。俳句。

新刊紹介

投稿規定

編輯局より

第二十卷第八号 (明治四十二年九月 日発行) 目次

伊藤 銀月

如何にして生活を為す可き乎 (社説) 記者

鉛筆漫興
論文。短篇小説。小品文。紀行文。写生文。美文。

文芸に於ける哲人主義 (論壇) 田中 喜一

新体詩。和歌。俳句 (投稿)

文芸結婚願末字典 (社会)

創作紹介

簡易平等主義 (小剣)

文芸短信

妻君の名はリサちゃん

(花袋)

投稿規定

総てを犠牲にしても

(葵山)

次号予告

袖子が屋根の草の露

(国男)

社会百方面の楽しみと苦しみ (社会)

第二十卷第九号 (明治四十二年十月発行) 目次

巻頭 精燃

三木 露風

秋は来れり (社説)

村田 犀川

修養 青年と球突き

三原新太郎

修養問題よりする文芸観 (論壇)

沢柳政太郎

社会 文芸と演説の側面観

中山 破山

閨秀作家の結婚字典 (社会)

文芸 虚子氏座談

高浜 虚子

右証明候也

(八千代女史)

倦怠されたる日本絵画

静 涯 生

恋慕流しがモーティブ

(加藤籌子女史)

演劇雑談

真山 青果

寧ろ女性の誇り

(楠緒子女史)

誤まられたる川上眉山

有本 樵水

初めて遊学したる学生の告白

文壇漫語

馬場 孤蝶

巻頭 こほろぎ

尾上 柴舟

小説 二日間

徳田 秋声

論説 自由劇場論

小山内 薫

老妾

早川十七迷

理想の音楽教育

湯原 元一

雑俎 遊廓へ入る雑誌の種類

修養 現代を観察せよ

長谷川天溪

小田原と箱根

村田 犀川

如何にして作家たるべきか

三島 霜川

家庭に入るべき小説

和田垣謙三

文芸 「鴨」の梗概

稲田 薄光

魯庵氏雑話

自由劇場の開演に就て

柳川 春葉

文部省美術展覧会所感

吉田 博

新刊の二詩集

村田 犀川

創作 響後集

山上 上泉

飢ゑたる鼠

土屋 瘦猿

人間生活 (トルストイ)

神崎沈鐘 沢木下 静涯

雑俎 妙義と浅間

緩調急調

論文。小品文。紀行文。写生文。美文。新体詩。和

歌。俳句。短篇小説 (各投稿)

新刊紹介

編輯局より

墨提の秋色

郊外生活記者

(文芸) 創作と批評

小川 未明

輓近の批評界

徳田 秋江

ブレーク抄

相馬 御風

俳傑一茶

内藤 鳴雪

京都と東京

高安 月郊

近松祭の記

原田 春鈴

画会巡覧贅語

A生、B生

(創作) 此秋の憂ひ

児玉 花外

森さん

山上 上泉

灰色の日

與謝野晶子

窓の灯

高照 千夜

悲しき蟬

土屋 瘦猿

(雑俎) 緩調急調

論文。小品文。写生文。美文。紀行文。新体詩。和

歌。俳句。漢詩。短篇小説

前月の創作

公設美術展覧会

机上新刊

目次

第二十卷第十号 (明治四十二年十一月発行)

生活の問題 (社説)

村田 犀川

口と眼と耳のみの時代 (論壇)

木下 尚江

常識と人生 (修養)

田中 義能

街上

前田 夕暮

第二十卷第十一号（明治四十二年十二月発行）目次

荒野の著者に

村田 犀川

（巻頭）不信

三木 露風

（論壇）公設展覧会に出陳されたる

尾竹 国観

歴史画

吉田 博

公設展覧会所感

戸張 孤雁

本年の公設展覧会

洋画界某大家

輓近の美術

久保猪之吉

（修養）嗅覚の生理及心理

原田 春鈴

（社会）市村座の十二月十四日

東西 来

演劇時事、若き彼等は如何にして忘れられしか

現代

小松島百花園と木母寺、鐘が淵「落

現代道徳思想の一側面観

葉」の作者を訪ふ

現代新聞雑誌

（創作）灰焼く煙

現代教育の批判

臼のひびき

現代の思想と哲学

肥厚性鼻炎

現代の絵画

山行四人

断片

（緩調急調）

当来の新哲学

（文芸）四十二年の創作界

現今の詩と詩風

四十二年の俳句界

現代の翻訳

四十二年の詩界
四十二年の美術界
（雑俎）軽井沢まで軽井沢より
新刊を読みたる後
机上新刊

児玉 花外
木下 静涯
なにがし
村田 犀川

論文。小品文。美文。写生文。紀行文。小説。和歌。

尾上 柴舟
村田 犀川

俳句。新体詩。―各投稿

藤井健次郎
池辺吉太郎

新年号予告

三輪田元道
金子 筑水

第二十一卷第一号（明治四十三年一月発行）目次

石井 柏亭
島村 藤村

山より海を望みて

白松 南山
蒲原 有明

現代

柴田 流星

現代道徳思想の一側面観

現代新聞雑誌

現代教育の批判

現代の思想と哲学

現代の絵画

断片

当来の新哲学

現今の詩と詩風

現代の翻訳

倦怠趣味の歌壇

先づ人生根本の問題

現代の音楽は新声を要求す

錯誤時代

現代の運動と教育

笑と眼付

獣と鳥と魚

幼き日記

緩調急調

塵埃集

洋楽趣味の普及と邦楽の将来

最近芸文に関する二三の批評

日没のあと

如何にして自己を知るべきか

春風秋雨録

刻下の劇壇は翻案劇を要求す

劇界は楽観に価す

現代の文士劇

当今の劇壇

わが性の影

現代観

佐々木信綱

片上 天弦

東儀 鉄笛

守田 有秋

水谷 武

小川 未明

相馬 御風

徳田 秋江

前田 夕暮

北村 秀晴

地下一尺生

三木 露風

内藤 鳴雪

飛花落葉生

土肥 春曙

柳川 春葉

杉 價阿弥

伊原青々園

金沢 美巖

伊藤 銀月

音楽は国民趣味を支配す

現代の学生と昔の学生

論文

小品文

紀行文

和歌

写生文

美文

新体詩

小説

俳句

各投稿作

新年十時間

去年の正月

附録講話

現代の露西亞文学

ギイ・ド・モウパッサン

吉丸 一昌

戸川 残花

村田犀川選

伊藤銀月選

田口掬汀選

編輯局選

三島霜川選

斎藤弔花選

児玉花外選

徳田秋声選

早川十七選

記者

記者

昇 曙夢

馬場 孤蝶

第二十一卷第二号(明治四十三年二月発行) 目次

我等何を求めつつありや

画家の情緒

森田 恒友

村田 犀川

伊藤 銀月

田口 掬汀

編輯 局選

三島 霜川

斎藤 弔花

児玉 花外

徳田 秋声

早川 十七

記者

記者

昇 曙夢

馬場 孤蝶

森田 恒友

村田 犀川

伊藤 銀月

田口 掬汀

編輯 局選

三島 霜川

斎藤 弔花

児玉 花外

チエホフの作風とロシア人の生活思想

想

木立

日本現代の彫刻は西洋のイミテーションなり

ヨンナリ

当今の劇壇を此俚に

自己の芸術観に照せる現代の画界

車上

下女が婚礼する(チエーホフ)

山姫の火

初対面そのいろいろ

活動写真

如是我読

一、寄生木 二、明治教育思想史 三、

四、ハムレット

机上新刊

編輯子

論文

消息文

和歌

俳句

瀬沼 夏葉

前田 夕暮

萩原 守衛

岡本 綺堂

織田 一磨

水野 葉舟

楠山 正雄

児玉 花外

ランギペン

順 耳 風

犀 川 生

日本情史

村田犀川選

三島霜川選

編輯局選

早川十七選

散文

新体詩

短篇小説

社会病理学

海外文学研究(ギー・ド・モウパッサン)

サン)

第二十一卷第三号(明治四十三年三月発行) 目次

生き甲斐ある生活

ラフォルグ評伝

美術真価の要点

形式未定の新味

燕

詩 二篇

偽

潮沫

兄

壹幕見

初対面そのいろいろ

昇曙夢氏 内藤鳴雪氏

梢頭のおとづれ

斎藤甲花選

児玉花外選

徳田秋声選

遠藤 隆吉

馬場 孤蝶

社 説

岩野 泡鳴

戸張 孤雁

小川 未明

與謝野 寛

細越 夏村

前田 夕暮

佐藤 緑葉

與謝野 晶子

順 耳 風

ランギペン

長谷川しぐれ女史

高照 千夜

日本歌旅行

稲田 薄光

暮れ行く空

前沢 淵月

春風秋雨録

飛花落葉生

如是我読

犀川 生

森田草平氏『煤煙』、森林太郎氏の『一幕物』、幸

田成友氏の『大塩平八郎』

緩調急調

肌寒の一日

山下 更北

『渦巻』と『冷笑』

洛東安楽寺

青眼白眼

味 爽 生

論文。消息文。和歌。俳句。散文。

新体詩。短篇小説

社会病理学

遠藤 隆吉

海外文学研究（ツルゲーネフ）

馬場 孤蝶